

板 木

群馬県へき地教育研究資料第72集



「現存する板木」(みなかみ町)

令和6年3月

群馬県教育委員会
群馬県へき地教育研究連盟
群馬県へき地教育振興会

板 木

群馬県へき地教育研究資料第72集

序



へき地教育研究資料「板木」の歴史は古く、創刊は昭和 27 年に遡ります。この年は、群馬県へき地教育連盟が発足した年でもあります。今年度で第 72 集となる「板木」は、群馬県のへき地教育の営みの結晶であるとともに、へき地教育を語る重要な資料であります。改めて、へき地教育の振興に御尽力いただきました多くの方々の御努力に対し、心から敬意と感謝の意を表します。へき地教育の振興につきましては、昭和 29 年の「へき地教育振興法」の制定以来、さまざまな施策を実施してまいりました。今年度も、へき地教育振興会への補助、へき地教育センター運営費及びへき地学校巡回図書費の補助、

県へき地教育研究大会の開催などの施策を推進しております。

群馬県では、新・群馬県総合計画及び第 2 期群馬県教育大綱に基づき、あらゆる状況において子どもたちの学びを保障するとともに、多様な個性をもった子ども一人ひとりに応じた個別最適な学びと、多様な人々と関わりながら課題解決を図る協働的な学びを実現するため、教育イノベーションを推進しております。このような中、県内のへき地学校では、小規模校ならではの特性を生かし、子どもたちの理解を基に個性や能力を伸ばす教育や、地域とのつながりを生かし、学校以外の多様な人々とも関わりながら課題解決を図る教育を推進していただいております。また、1 人 1 台端末を効果的に活用し、時間的・距離的な制約に関わらず、多様な交流を実現したり、情報を共有・可視化することで協働的な学びを推進したりするなど、へき地学校の教育は一層充実してきています。

今年度の県へき地教育研究大会は、高崎市倉渕町を会場に、「ふるさとに夢や誇りをもって、未来の創り手となる子どもの育成～へき地・複式・小規模校の特性を生かした学校・学級経営と学習指導の深化・充実をめざして～」をテーマに行われました。研究協議では、「地域との更なる連携の推進～地域とともにある学校をめざして～」、「ふるさと六合を愛し、主体的に活動する生徒の育成～小規模校の特性を生かした学校経営と学習指導を通して～」について発表がありました。地域人材を活用して児童生徒の体験活動や地域学習を充実させ、子どもたちの主体性や郷土愛を育む実践が紹介されていました。また、学校公開では、子どもたちが協働性を発揮しながら学級全体で学ぶ姿が見られました。

このように、へき地教育に関わる皆様の御尽力により、着実にへき地教育の充実が図られております。これらの教育実践は、へき地校のみならず、すべての学校に多くの示唆を与えてくれるものです。今後もこれまでの実践の成果を踏まえつつ、へき地校ならではのよさを生かした教育を、なお一層推進していただきたいと思っております。県教育委員会といたしましても、今後さらにへき地教育が発展するよう、関係市町村教育委員会、県へき地教育振興会、県へき地教育研究連盟と連携して、一層努力してまいります。

結びに、へき地教育研究資料「板木」第 72 集の刊行に御尽力された県へき地教育振興会、県へき地教育研究連盟の関係各位に対し敬意を表しますとともに、各教育機関において「板木」が十分活用されますことを御期待申し上げて序といたします。

令和 6 年 3 月

群馬県教育委員会

教育長 平田 郁美

「板木」第72集の刊行に寄せて



群馬県へき地教育振興会は、昭和29年「へき地教育振興法」の施行に伴い、本県へき地教育の諸条件の整備・充実を図ることを期して設立されました。そして、この目標を達成すべく、群馬県教育委員会、関係市町村、市町村教育委員会及び群馬県へき地教育研究連盟とともに、へき地教育に関わる種々の事業に取り組んでまいりました。この間、複式学級の解消などへき地学校における教育条件の整備・充実に向けた取組が着実になされ、大きな成果を挙げてきております。これらは、へき地教育に献身的に

取り組まれてきた先生方や、地域において様々な御支援をくださっている多くの方々の御尽力の賜であると心より感謝申し上げます。

少子化に伴う児童生徒数の減少により学校の統廃合が進んでおり、今年度のへき地学校は28校となり2校減少しました。へき地学校に通う児童生徒数も減少の傾向にありますが、個々の児童生徒は心身共に健やかで、地域をよく知り、地域を好きになる子が増えているように感じます。これは、豊かな自然とこれまで大切に守られてきた地域の伝統や行事などを生かし、学校・家庭・地域が一体となって児童生徒一人一人に寄り添った教育を推進していただいているおかげだと考えております。

将来の予測が困難な時代を迎え、子供たちの置かれている環境はめまぐるしく変化しております。このような時代においても、これからの社会の創り手となる子供たちが、生まれ育った郷土・群馬に誇りと愛着をもち、学校、家庭、地域における様々な人との関わりの中で培った感性を働かせて、現在では思いもつかない新しい未来の姿を創造していくことができるよう生きる力を育ててほしいと願っております。

このたび、へき地教育研究連盟の皆様方が中心となって、本県へき地学校で行われている特色ある教育実践等をまとめた「板木」第72集が刊行されますことは、本県のへき地教育の現状と課題を明確にできるとともに、今後のへき地教育の振興を一層図ることに役立つ大変意義深いものと考えます。関係各位におかれましては、へき地教育に関する研究や実践をまとめたこの「板木」を十分御活用いただき、群馬県のへき地教育のさらなる発展・充実のために御尽力くださいますよう、心よりお願い申し上げます。

最後に、平素よりへき地教育の振興に御協力いただいております県当局をはじめ、県教育委員会、関係市町村、市町村教育委員会及び各地域の皆様へ、厚く御礼申し上げますとともに、一層の御指導と御協力をお願い申し上げます、刊行に寄せての挨拶といたします。

令和6年3月

群馬県へき地教育振興会

会長 星野 已喜雄

「板木」第72集の発刊にあたって

平素より関係の皆様にはへき地教育並びに群馬県へき地教育研究連盟の活動に対しまして御支援と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。今年度も群馬県へき地教育研究資料「板木」が第72集として発刊の運びとなりました。「板木」は、群馬県へき地教育の貴重な資料として長年活用されてきています。これまで「板木」の発刊に携わってこられた多くの皆様の御尽力に対しまして心より敬意を表します。

さて、全国へき地教育研究連盟では、第9次長期5か年研究推進計画の研究主題「ふるさとに夢や誇りをもって、未来の創り手となる子どもの育成」の最終年度を迎えました。この研究主題は、学習指導要領総則にある「複雑で予測困難な時代の中でも、児童一人一人が、社会の変化に主体的に向き合って関わり合い、自らの可能性を発揮し多様な他者と協働しながら、よりよい社会と幸福な人生を切り拓き、未来の創り手となることができるよう、各学校の特色ある教育活動を展開する中で必要な力を育成していく」を受けた取組として確かな足跡を残しています。

10月第2週には、「ひょうご五国から発信 令和の日本型学校教育を先導する へき地教育の可能性」をスローガンに、全国へき地教育研究大会兵庫大会が参集とオンラインのハイブリッド型で開催されました。摂津・播磨・但馬・丹波・淡路という歴史や風土の異なる個性豊かな五国からなる兵庫県は、太平洋・瀬戸内海・日本海に面する沿岸部や播但山地・六甲山地・丹波高地などの山間地など、バラエティに富んだ地形から日本の縮図と呼ばれています。それぞれの地域で、へき地・小規模・複式学級を有する学校の特性や地域性を生かし、少人数によるきめ細かな指導体制、学習指導の工夫、ICTを活用した学校間交流など、豊かな自然や伝統を生かした教材化に取り組んできた様子が見られました。分科会や分散会では、兵庫県以外の島嶼部や山間部の発表校からも、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す「令和の日本型学校教育」を先導する取組に感じられました。

10月第3週には、群馬県へき地教育研究大会が高崎市立倉渕小学校で開催されました。公開授業では、ICTの活用を積極的に取り入れ、交流や発信の機会を工夫して、自分の思いや考えを表現する力を育成することを目指している様子が見られました。研究協議では、Bブロック代表の六合中学校とCブロック代表の高山小学校の発表があり、地域の人材や伝統を活かした、特色のある教育についての素晴らしい発表がありました。本県のへき地教育でも、大会テーマ「ふるさとに夢や誇りをもって、未来の創り手となる子どもの育成」を合言葉に、へき地・複式・小規模校の特性を生かした学校・学級経営と学習指導の深化・充実を目指し、地域の特性を生かし、地域に根ざした教育が推進されていると感じました。

「板木」第72集には本研究連盟の1年間の研究実践ならびに全国へき地教育研究大会や関ブロへき地教育研究大会の参加報告等が掲載されています。へき地校の減少は、本県だけではなく全国的な傾向ではありますが、へき地ならではの特色ある教育実践には、「へき地に光を」の時代から、「へき地から光を」へと変化が見られます。へき地・複式・小規模校が積み重ねてきた教育実践を、へき地の学校だけでなく、都市部の学校でも活用していただければ幸いに存じます。

結びになりますが、「板木」第72集発刊にあたり執筆や編集に携わっていただきました先生方にお礼を申し上げますとともに、日頃より御指導と御支援をいただいております群馬県教育委員会並びに群馬県へき地教育振興会をはじめ、関係者の皆様に深く感謝申し上げます、発刊にあたっての挨拶とさせていただきます。

令和6年3月

群馬県へき地教育研究連盟

理事長 **小池 裕生**

も く じ

序 文

序	-----	群馬県教育委員会教育長	平田 郁美
「板木」第72集の刊行に寄せて	-----	群馬県へき地教育振興会長	星野 已喜雄
「板木」第72集の発刊にあたって	-----	群馬県へき地教育研究連盟理事長	小池 裕生

第1部 へき地教育の振興

I 変貌するへき地の学校

南牧村立南牧中学校の閉校	校長	太刀川 雄一	-----	1
応桑小学校の閉校に寄せて	校長	塩野谷 喜生	-----	2
歴史ある長野原町立北軽井沢小学校の閉校	校長	土屋 学	-----	3

II へき地の学校経営

〈1〉小学校	昭和村立大河原小学校長	平形 隆正	-----	4
〈2〉中学校	南牧村立南牧中学校長	太刀川 雄一	-----	6

III 学習指導の改善に関する実践的な研究

嬭恋村立東部小学校長	家本 光雄	-----	8
------------	-------	-------	---

IV へき地学校における生徒指導の実践

〈1〉小学校	上野村立上野小学校長	梯 直人	-----	10
〈2〉中学校	草津町立草津中学校長	石塚 博文	-----	12

第2部 へき地学校教員研修のあゆみ

I 令和5年度へき地学校教員研修の概要	-----	14
群馬県へき地教育研究連盟研究部長		
高崎市立宮沢小学校長	春山 敦夫	

II 第72回群馬県へき地教育研究大会

〈1〉 概要	-----	15
群馬県へき地教育研究連盟研究部長		
高崎市立宮沢小学校長	春山 敦夫	
〈2〉 提案要旨		
《小学校班》 高山村立高山小学校長	佐藤 和昭	----- 16
《中学校班》 中之条町立六合中学校長	桑原 武史	----- 18

III 第20回関東甲信越へき地教育研究大会（茨城大会）

〈1〉 概要報告	-----	20
群馬県へき地教育研究連盟副理事長		
沼田市立利根中学校長	田村 学	
〈2〉 分散会報告	-----	21
高崎市立倉渕中学校長	大塚 浩文	
〈3〉 公開授業報告（茨城県大子町内小中学校）		
さはら小学校 片品村立片品小学校長	小林 菊江	----- 23
生瀬小学校 長野原町立北軽井沢小学校長	土屋 学	----- 24
南中学校 高山村立高山中学校長	石関 博之	----- 25

IV 第72回全国へき地教育研究大会（兵庫大会）

〈1〉 概要報告	-----	26
群馬県へき地教育研究連盟研究部長		
高崎市立宮沢小学校長	春山 敦夫	
〈2〉 分科会報告		
C分科会 県義務教育課指導主事	神戸 恵美子	----- 27
D分科会 高崎市立宮沢小学校長	春山 敦夫	----- 27
G分科会 嬭恋村立嬭恋中学校長	小池 裕生	----- 28

資 料

I 令和5年度へき地学校資料	-----	29
II 令和5年度群馬県へき地教育振興会役員	-----	32
III 令和5年度群馬県へき地教育研究連盟役員	-----	33
IV 令和5年度群馬県へき地教育センター指導員	-----	33
V 令和5年度へき地教育功労者	-----	34

あとがき	-----	35
------	-------	----

第 1 部

へき地教育の振興



群馬県へき地教育研究大会 開会行事



群馬県へき地教育研究大会 研究協議会

Ⅱ へき地の学校経営

〈1〉 小学校

学校・家庭・地域、みんなの笑顔が輝く大河原小学校に

昭和村立大河原小学校長 平形 隆正

1 学校の概要

赤城山の西北麓に広がる広大な大地のうち、片品川河岸段丘の上段の標高685mに位置する。周囲は広大な耕地に囲まれ、ほうれん草、レタス、コンニャク等の野菜作りが盛んな地域である。

○県準へき地校 ○学級数6学級 ○児童数57名（世帯数36） ○職員数22名

2 学校教育目標

高い知性、調和のとれた豊かな人間性と社会性、たくましい意志と創造力をもった心身ともに健康な児童の育成を図る。

○進んで学習する子（自ら考え進んで勉強する子）

○思いやりのある子（相手の気持ちになって考え、助け合う子）

○たくましい子（心身ともに健康で、ねばり強くやりぬく子）

＜令和5年度重点目標＞

みんなの笑顔が輝く、学び愛・助け愛・ありがとうのあふれる大河原小学校の創造

3 学校経営方針

- (1) 学校教育目標の実現を目指し教育課題解決に向けて全職員で組織的・協働的に取り組む。
- (2) 主体的・対話的、深い学びを実現し児童が満足感や達成感、成就感を得られる学習や生活の場の充実を図る。
- (3) 学校・家庭・地域の協働により児童の健全育成を図る。

4 本年度の努力点に関わる取組

(1) 確かな学力

I C T活用による個別最適な学び・協働的な学びの充実を図るとともに、令和4年度まで3年間の群馬県教育委員会の先進プログラミング教育実践モデル校事業の成果を活かした取組の継続実践を進め成果を上げている。

(2) 豊かな心

学び愛・助け愛、思いやりのある優しい児童の育成を図るため、縦割り団活動や緑の少年団活動の一層の充実を図り成果を上げている。



【プログラミング学習(3年)】



【学び愛・助け愛の活動(縦割り)】



【緑の少年団花植え(縦割り)】

(3) 生徒指導の充実

児童の自己有用感や自己肯定感を高め、この学校・学級でよかったと思える指導の充実、いじめをしない、させない、許さない意識を確実に身に付けさせる指導の徹底を図り成果を上げている。

(4) 健康・体力

避難訓練・防災教育の意図的・系統的な実践を通して、危険予知能力・危険回避能力の育成を図るとともに、体力向上、進んで運動する児童の育成を目指し取り組んでいる。



【下校パトロール(地区青少推)】



【火災避難訓練】



【全校モーニングラン】

(5) 特別支援教育の充実

児童一人一人の多面的な理解、個に応じた支援の充実を図り、個別の指導計画の作成・充実、保護者との連携の一層の推進により特別支援教育の充実を進めている。

(6) 組織運営

学校課題を共通理解し、解決に向け全職員での組織的・協働的な取組を推進、働き方改革・OJTの推進など、若手職員の育成による組織の活性化を進めている。

(7) 家庭・地域との連携

P T Aや学校運営協議会での連携により協働で取り組む機運を高め、学校・家庭・地域の目標やビジョンを共有し、課題解決のための協働実践により成果を上げている。



【村特別支援学級交流会(りんご狩り)】



【協働的に学ぶ職員研修】



【夏チャレ(PTA主催)和太鼓体験】

5 おわりに

赤城北麓の開墾は戦後間もない頃に始まり、昭和24年頃に盛んに行われ、昭和42年5月には旧利根村から水が引かれた。これにより、大きな貯水池が整備されたことで畑地の灌漑が進み、大河原地区の人口も増えてきた。人々の絶え間ない努力によって開かれた大地に建てられた大河原小学校は、家庭・地域から愛され支えられ、家庭・地域とともに特色ある教育活動を推進し成果を上げてきた。これからも、より一層、家庭・地域に愛される学校を目指し、学校・家庭・地域、みんなの笑顔が輝く学校づくりを進めていきたい。

〈2〉中学校

ふるさと南牧を愛し、豊かな人間性をもった生徒の育成

～地域の思いや力を生かした学校づくり～

南牧村立南牧中学校長 太刀川 雄一

1 地域・学校の概要

本校のある南牧村は、群馬県の南西部にあり、西は長野県との県境にある。東西16.5km、南北9.2km、面積119km²で、標高800～1400mの険しい山々に囲まれた山間部である。村の西部は妙義荒船佐久高原国定公園の指定地域になっており、南牧村自然公園ではキャンプなど自然に親しむことができる。村の歴史は古く、石器や土器が出土し各時代を今に伝える遺跡や遺物が散在する。昭和30年代は、蒟蒻栽培を中心に養蚕、林業等が盛んで大多数が農家であったが、農林業の衰退と共に過疎化、高齢化が進み、数年前から高齢化率日本一の自治体となっている。村では、高齢化対策および活性化のために、村独自のネットワークで「なんもくふれあいテレビ」を放送し各家庭と繋いでいる。平成11年度からは、このネットワークをインターネットで結び、各家庭と村が一体化するようになった。

本校は令和5年現在、生徒数17名、特別支援学級を含め4学級の極小規模校である。全体的に明るく温和で、与えられたことに真面目に取り組む生徒が多く、落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送っている。しかし、少人数で内輪で過ごしているため、よい意味での競争心が乏しく、互いに切磋琢磨して向上しようとする意欲が十分あるとは言えない。

2 学校教育目標

主体的に考え行動し、未来を拓く生徒の育成

3 目指す生徒像

- (1) 心身ともに健康でたくましい生徒
- (2) 目標をもって粘り強く努力する生徒
- (3) 自分や友達を大切にする生徒
- (4) ふるさとに誇りをもち大切にする生徒

4 学校経営の方針

- (1) 県・村の教育行政方針を踏まえ、全職員の協働体制のもと学校課題を共有し課題解決を図る。
- (2) 「自主・自律、協働、創造」の精神に基づき、生徒の個性や能力を伸ばすとともに、自他を尊重し、心身ともに健康でよりよい生き方を志向する豊かな人間性の育成を目指す。
- (3) コミュニティ・スクールを基盤として、学校・家庭・地域間の協働体制を確立させる。
- (4) 小規模校の利点を生かし、主体的・対話的で深い学びを通して「生きる力」を育む教育課程の編成・実施・評価を行う。
- (5) 各教科での探究的な学びをベースとし、総合的な学習の時間を中心に地域の素材や人材を存分に活用しながら、「自律した学習者」の確立を目指す。
- (6) 地域、自然、キャリア、福祉・ボランティア学習において、総合的な学習の時間等を中心に、体験的な活動を積極的に取り入れた教育を推進する。
- (7) 教育環境の整備に加え、教職員の危機管理意識の高揚と工夫した避難訓練により、生徒の危機回避能力や自己安全管理能力を図り、安全で安心できる学校経営を行う。
- (8) 各種たよりやWebページ等で、本校の特色ある教育活動を積極的に情報発信するとともに、家庭や地域から信頼される学校づくりを推進する。



5 実践の概要

平成17年の合併当時より、地元唯一の中学校として地域の方々から惜しみない協力をいただきながら、「地域とともにある学校」として学校運営を進めてきた。4年前からは学校運営協議会を設置し、CS（コミュニティ・スクール）として、より地域に密着した教育活動を展開している。今年度も様々な面で地域の力をお借りして教育活動の充実を図っている。

(1) 林業学習〈1年生〉

村の主要産業の一つである林業への理解を深め、今後のふるさと学習へつなぐために、南牧村の面積の約90%を占める森林を整備する森林伐採（間伐）を見学した。初めて見る伐採の様子に生徒は高い興味関心を示すとともに、林業の仕事や間伐の大切さを教えていただき、森林や林業に対する自分なりの考えをもつことができた。また、切断した輪切りの木を持ち帰りその活用方法を考えることができた。



(2) 職場体験〈2年生〉

働くことについて理解を深め、社会性や自主性、協調性を身に付けることを目的に、2年生4名が地元の4事業所（なんもくふれあいテレビ、ちょっとしたcafe、村の喫茶店もくもく、さくら保育園）で職場体験を行った。普段の学校生活では窺えない積極的な姿勢が見られ、各事業所が地域にどのように貢献しているのか理解することができた。生徒は、「それぞれの仕事の技術や技能を知ることができた」「親が働いていることの大変さや感謝を学ぶことができた」など、前向きに振り返ることができた。



(3) 子ども議会〈3年生〉

1、2年時の学習内容をもとに各自がまとめた村の課題と課題解決に向けた取組の案を、実際の議会と同様に、役場の議場において議員の方々や事務局担当者の前で提言した。情報を収集、整理・分析し自分の意見や考えをまとめ、行政への提言という形でアウトプットできたことは、生徒一人一人の自信と表現力の向上につながった。また、「地元



に貢献したい」という思いを抱くなど、社会参画意識の向上にもつながった。

(4) 養鶏〈全校〉

『地元の畜産業の現状や課題について考え、ふるさとの自然や生活、産業等の課題解決に積極的に関わろうとする態度を養う』等をねらいとして鶏の飼育を行ってきた。この活動を始めるにあたり、専門的な知識が必要不可欠であったが、南牧村で野菜や鶏卵などを扱っている「自然農園まほらま」を経営されている方の御協力もあり、無事に継続することができた。生徒数が少ないため小屋の清掃や餌やり等の世話は大変だったが、卵を産んでくれたときの感動や喜びを味わうことができた。また、身近な食品と生物の関わりについて実感をもって理解することができた。



6 おわりに

昨今、多様性の尊重が謳われグローバル化が求められているが、ふるさとへの愛着などローカルへの意識があつてこそ、より深く中身のあるものになると考える。義務教育学校となる来年度からも、どちらの視点も大切にしながら、学校・保護者・地域が一体となって、これからの時代を切り拓く子供たちを育てていきたい。

Ⅲ 学習指導の改善に関する実践的な研究

主体的・対話的に学ぶ児童の育成

～協働的な学びを実現するためのICT活用の工夫を通して～

嬭恋村立東部小学校長 家本 光雄

1 学校の概要

本校は、群馬県北西部の浅間山北麓に位置し、高原キャベツの生産・出荷が盛んな嬭恋村にある小学校である。平成25年4月に嬭恋村立東小学校、嬭恋村立鎌原小学校の2校が統合して今年で11年目を迎えた。今年度の児童数は145名、学級数は10学級（内、特別支援学級4）である。嬭恋村の東部を学区とし、児童の80%がスクールバスを利用し、その路線は7系統となる。

2 主題設定の理由

本校では、学校経営方針「授業づくり・仲間づくり・習慣づくり」を重点に、児童が「明日も通いたくなるあったかい学校」づくりを目指している。これまでに、児童、教員双方のICT活用の能力向上を図るとともに、授業における児童の個別最適な学びを確保できるようICTを活用した授業実践に取り組んできた。その中で、「学びの対話性を図るための具体的な方策」や「ICTを活用する場面の精選」に課題が見つかった。そこで、これまで行ってきた個別最適な学びを継続しながら、ICTを活用した協働的な学びを実現していくことで、主題「主体的・対話的に学ぶ児童の育成」につなげていくことができると考えた。ICTを活用し、多くの考えに触れ合う活動を通して、自分の考えと友達のを比較・検討し、自らの考えを深めたり創造したりすることができる児童、さらに自分の考えに自信をもち、個性や可能性を伸ばしていく児童を育成したいと考えた。

本研究では、「はばたく群馬の指導プランⅡ ICT活用Version」実践事例サイトなどを参考にし、児童の実態に合わせた、協働的な学びのある授業づくり、及び授業実践を行っていく。これらの研究を通して、授業における個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ることにつなげていきたいと考え、本主題を設定した。


3 実践例（4年生道徳科）

(1) 主題「分けへだてのない行動」／教材名「ちょっと待ってよ」

(2) ねらい 公平に接することができない京一を見た正広の思いを通して、誰に対しても分け隔てなく行動するために大切なことについて考え、誰に対しても公正・公平に接しようとする実践意欲を育てる。

(3) 展開

主な学習活動	○発問 ☆児童生徒の意識	指導上の留意点及び支援	時
1 分け隔てのない行動とはどんな行動なのか考える。 ○「分け隔てない」とはどのような意味か、調べてみよう。 ☆差別をしない。 ☆相手によって扱いを変えない。 ☆自分は分け隔てなく行動してるかな。		・国語辞典を活用し、全員で「分け隔てない」という意味について確認する。	5
めあて：誰に対しても、分けへだてなく行動するために大切なことは何か考えよう。			
2 資料「ちょっと待ってよ」を読んで、話し合う。 【1】の場面について ○京一に「なんだよ、しっかりしろよ」と言われた静花の気持ちはどんな気持ちだったでしょう。 ☆強く言われて嫌な気持ち ☆どうして男子は言わなくて、女子には言うの？ ○ため息をついた正広はどんなことを思っていたでしょう		・京一の、男子と女子への態度の違いを確かめてから、静花の気持ちを考えさせたい。 ・正広は、嫌な態度をとられ	10

<p>か。</p> <p>☆男子だけひいきするなんて、嫌だな。</p> <p>☆男子と女子で態度を変えない方がいいのに。</p> <p>【2】の場面について</p> <p>○しょんぼりして椅子に座った友治はどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>☆ケガしているけど、できることはあるのにな。</p> <p>☆ぼくも手伝いたい。どうしてさせてくれないんだろう。</p> <p>○正広は、どうして「みんな、ちょっと待ってよ。」と言ったのでしょうか。</p> <p>☆友治が寂しそうだ。友治にだってできることはある。</p> <p>☆友治の気持ちを考えないのはおかしい。</p>	<p>てはないことを押さえ、不平等な態度は周りの人にも影響を与えることを捉えさせる。</p> <p>・京一たちは、ケガをした友治に対して気を遣ったつもりだが、一方的な決めつけになっていたのかもしれないことを捉えさせる。</p> <p>・「京一たちは友治のことを心配して作業させなかったのではないか。」と問い返すことで、友治の気持ちを聞くことの大切さに気づきやすくする。</p>	10
<p>○京一が、誰に対しても分け隔てなく行動するためにどのようなことを考える必要があると思いますか。</p> <p>☆相手がどう思っているか聞くことが大事。</p> <p>☆勝手に、友達がどう考えているか決めつけていたから、勝手に思い込まない。</p> <p>☆男子だから、女子だからと、偏った見方をしない。</p> <p>☆言われた人の気持ちを考える。</p>  <p>【評価項目】誰に対しても分け隔てなく行動するために必要なことを考えている。 (発表、プリントの記述)</p>	<p>・ワークシートに記入させる。</p> <p>・タブレットで撮影し、オクリンクで送らせ、友達と考えを共有できるようにする。</p> <p>・友達の考えに対し、自分との相違点や質問を考え、発表させる。</p>	15
<p>3 めあてに沿って振り返る。</p> <p>〈振り返りの姿〉</p> <p>☆自分も勝手に相手の気持ちを決めつけていたところがあるから、気をつけていきたい。</p> <p>☆誰に対しても、公平にする。差別しない。</p> <p>☆自分がされて嫌なことは友達にしない。</p>		5

4 成果と今後の課題

(1) 成果

本道徳科授業では、中心発問に対する自分の考えをワークシートに記入し、オクリンクを活用することによって短時間に互いの意見を共有するというICT活用の実践事例である。ICTを活用することで、児童の意見集約の効率化や教員による意見の焦点化が容易に図れるようになった。また、リモート機能や共同編集機能を利用する場を設定することで、全体での発表や意見交流に抵抗がある児童も授業に意欲をもって参加できるようになった。

(2) 課題

今後も、日々の授業実践の中で、ICTを「どんな目的で」「どの場面で」「何をするために」活用していくのか、指導者が常に意識して取り組んでいく必要があると考える。

I 変貌するへき地の学校

南牧村立南牧中学校の閉校

南牧村立南牧中学校長 太刀川 雄一

1 はじめに

本村は群馬県の南西部に位置し、東及び北は下仁田町、南は上野村、西は長野県の佐久市や佐久穂町と境している。昭和30年3月15日に尾沢、月形、磐戸の3か村が合併し「南牧村」として発足した。平地は村のほぼ中央部を東西に貫いて流れる南牧川、及びその支流沿いの河岸段丘上に分布し、住居や主要道路となっている。このように、南牧村の地形は起伏が多い急峻な山々と、それを切り開いて流れる河谷によって、特徴付けられる。

本校は、平成17年に南牧中学校と磐戸中学校が合併し、千原地区の旧磐戸中学校に新生「南牧中学校」として誕生した。しかし、旧磐戸中校舎の老朽化のため整備できるまで大日向地区の旧南牧中校舎を使用し、平成20年に漸く承認され、正式な校舎として使用してきた。令和5年度の全校生徒数は17名である。本村では令和2年度に南牧小学校と南牧中学校の統合が決定し、令和5年7月より新校舎の建築が南牧小学校の敷地で進められており、令和6年4月から義務教育学校「なんもく学園」として開校する予定である。



尾沢中学校 昭和62年当時

2 学校の沿革

- 昭和22年 月形村立月形中学校として開校（生徒数191名）
- 昭和22年 尾沢村立尾沢中学校として開校（生徒数141名）
- 昭和22年 磐戸村立磐戸中学校として開校（生徒数265名）
- 昭和23年 月形中学校校舎改築、落成式
- 昭和24年 尾沢中学校校舎落成
- 昭和24年 磐戸中学校校舎落成
- 昭和30年 町村合併により各中学校が南牧村立学校となる
- 昭和39年 学校体育優良校として県教委より表彰
- 昭和41年 尾沢中学校 県学生科学研究最優秀賞を受賞
- 昭和42年 各中学校で完全給食実施
- 昭和53年 月形中学校 新校舎落成式
- 昭和63年 尾沢中学校と月形中学校が統合され南牧中学校として開校
- 平成8年 磐戸中学校 開校50周年記念式典
- 平成17年 現在の南牧中学校開校（南牧中学校と磐戸中学校が合併）（生徒数38名）
- 平成20年 旧南牧中校舎が正式な校舎となる
- 平成22年 講堂落成70周年行事開催
- 平成26年 統合10周年記念事業開催
- 令和元年 普通教室エアコン設置
- 令和2年 全校生徒・教職員にタブレット配付
- 令和6年 閉校式



月形中学校旧校舎と講堂 昭和23年当時



令和5年度 全校生徒17名

3 おわりに

南牧中学校は閉校になるが、地域とともにある学校として、伝統と文化は義務教育学校「なんもく学園」に引き継がれる。子供たちがこの素晴らしい『ふるさと南牧』をいつまでも大切に、これまでと同じように「共存共生」の精神で歩いていってくれることを願っている。

IV へき地学校における生徒指導の実践

〈1〉小学校

一人一人のよさや可能性を引き出す生徒指導

上野村立上野小学校長 梯 直人

1 地域・学校の概要

本校のある上野村は、南は埼玉県、西は長野県に接する標高450m以上の急峻な山村である。村の95%が森林であり、季節の移ろいが感じられる山々と関東一の清流と言われる神流川が流れる豊かな自然に恵まれている。保護者・地域・上野村の学校への協力が厚く、授業や地域見学、体験学習等大きな力を発揮してくれ、一緒に子供たちを育ててくれている。今年度の児童数は58名、学級数は、2・3年生の複式学級、特別支援学級1学級を含め計6学級である。



上野村では、今年で32年目となる山村留学制度を取り入れており、指導員の下、小中学生が共同生活を行いながら、村内の小中学校へ通っている。今年度の上野小は、3～6年生の児童13名を受け入れている。昨年度から、子供たちと職員と一緒に家庭学習の在り方を考える「宿題会議」や、保護者と職員と一緒に学校の在り方を考える「学校づくり会議」が始まり、学校・子供・保護者がつながり合って自分たちの学校をつくっていく取組が行われている。

2 生徒指導の方針

(1) 方針の重点

一人一人の児童が今と将来を生き生きと生活するために、様々なことに活躍したり挑戦したりできる場を設定し、活躍を認めたり励ましたりしながら、自己指導能力の高まりを目指す。

(2) 努力点の重点

児童が様々な場面で自分から挑戦したり活躍したりする場を設定し、活躍や努力を認めたり、励ましたりする活動を通して、友達によさに気付いたり、温かい人間関係を築いたりできるよう、全校一体となつてつながりを深めていく。

3 実践の概要

学校が達成をしたいと思うことは多くあるが、学校の現状や上野村が目指す方向性、10年後、20年後に社会に出たときにも子供たちを支える力など、多面的に職員で意見を出し合い、今年度の学校の重点を「自分で考え、自分から行動できる児童の育成」とし、キーワードを「自分から」とした。生徒指導においても、自己指導能力と関わり、「自分で考え自分から行動できる力を身に付けるための生徒指導」、「子供たちが、今・将来を豊かに生きていくための力を身に付けるための生徒指導」が子供たちへの生徒指導のベースになっている。

(1) 児童会スローガン

児童会が決めたスローガン「Challenge!やればできる」が、今ではすっかり子供たちの中に浸透している。授業においても遊びの中においても、少し自信がなかったり勇気が出なかったりするような時に、自分自身に向けて、また友達へ向けて「Challenge!」「やればできるよ」と声をかけ合っている。自分から一歩前へ踏み出す時の自分自身へ勢いを与える言葉、友達に勇気を与える言葉であると同時に、子供同士をつなぐ言葉にもなっている。



勇気を引き出す児童会の旗

(2) 自己指導能力を高めるための「自分で考え、自分から行動できる力」の育成

授業、家庭学習、行事、放課後活動のCT（チャレンジタイム）を使って「自分で考え、自分から行動できる力」を育成している。授業では、高学年の算数で自由進度学習を取り入れたり、家庭学習では「上野小議会」を重ねながら自分で決める家庭学習に取り組んだりしている。自己決定の場が大幅に増えるとともに、うまくいかなかった時に「何をどう変えれば？」と友達と話し合ったり、再度違う方法で試しながら行動したりすることが増えている。「Challenge! やればできる」という児童会スローガンにも力をもらい、子供たちが失敗をマイナスと捉えずにChallengeを繰り返しながら進んでいる。

(3) 全学年が主催者を経験する全校遊び

年間を通して、月の予定の中に、20分休みの時間を利用した全校遊びの時間が計画されている。この時間は、担当学年の児童が企画・司会・進行を行い、全員が楽しめるように全校児童を動かしていく。高学年だけが担当するのではなく、1年生も前に立って全校児童を動かす経験をする。この経験は繰り返し回ってくるので、回を重ねるごとに各学年とも上手に全体を動かせるようになり、高学年の姿をまねて育っていく低学年も達成感を味わい、自分たちから力を伸ばしていく姿が見られる。



全校遊び、今日は2年生主催

(4) 上野小議会、テーマは「家庭学習の在り方」

職員の間で、宿題を「やらされる勉強からやる勉強へと変えていけないものか」と話合いを進めていく中で、「その会議に僕たちも入れてください」と子供から声が上がった。それをきっかけに職員と有志の子供たちとの会議が始まり、今では3～6年生全員が参加して話し合う会議（上野小議会）までになり、現在まで5回開催されている。意見を交わし合い、試し、うまくいかなかったことを出し合いながらよりよい家庭学習の在り方を見出ししていく過程には「共感的な人間関係」、「自己存在感」、「自己決定」、「安全・安心な風土」が見て取れる。

(5) 参加は自由、保護者との「学校づくり会議」

保護者の方々が、実感をもって学校づくりに関わっていく場として「学校づくり会議」をスタートした。参加は自由、時間はどんなに盛り上がってもそうでなくても1時間、テーマは、まずは子供たちとの上野小議会に合わせて「家庭学習の在り方」とした。現在までに4回開催され、毎回10人以上の保護者の参加があり、学校の考えについての意見交流や家庭での子供の様子、親としての希望などの話が交わされている。何か問題があってから



親子合同の学校づくり会議

の話合いではなく、和やかな雰囲気の中で子供たちのことを思って回を重ねていく話合いは、子供たちにとって最もよいことを第一に考えることにつながっている。

4 おわりに

家庭学習の在り方の他にも、校時表や放課後の活動の変更など、学校生活を少しずつ変えてきたが、その都度、何がどのように変わったのか、なぜそのように変えたのかを子供たちへ話し、意見を聞き、質問を受け、児童が主体的に学校づくりに参画していく形をとってきた。最近では、人権を呼びかける児童自作のポスターを子供たち自ら貼ったり、校長室へ子どもが学校づくりについて話しに来たりする姿も見られる。身近な課題の解決や自分にとっての目標の達成など、目指したいことを子供たちがもって進んでいく過程の中で、一人一人のよさや可能性を引き出し、自己指導能力を高める生徒指導を、これからも学校、家庭、地域で協力して続けていきたい。

〈2〉 中学校

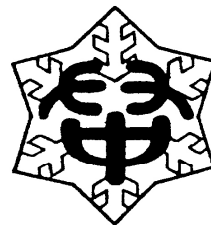
郷土を愛し、たくましく未来を切り拓く生徒の育成

草津町立草津中学校長 石塚 博文

1 学校の概要

本校のある草津町は、群馬県の北西部に位置し、草津白根山の麓に広がる日本でも有数の観光地「草津温泉」にある。湯畑を中心とした温泉街に加え、周辺にはスキー場や多くのリゾートホテルがあり、年間約300万人以上の観光客を受け入れている観光立町である。

本校の生徒数は、102名（男子55名・女子47名）、学級数は7学級（1・2年各1学級・3年2学級・特別支援学級3学級）であり、吾妻郡の中学校7校中4番目の小規模校である。「笑顔・全力・声・感謝」をスローガンに掲げ、「心豊かで、高い知性をもつ、健康な生徒の育成」を基本目標に、全教職員はもとより、地域住民の協力体制と信頼関係を基盤とし、生徒が安全に落ち着いて学習活動に取り組み、自己実現が図れる学校づくりを目指している。



2 生徒指導の方針

- (1) 生徒と教師、生徒と生徒の人間的な触れ合いを重視した継続的な指導援助を行う。
- (2) 規範意識の高揚を図るため、家庭・地域社会と連携を図り、組織的に取り組む。
- (3) 教職員の共通理解のもとに学年やチームが機能的に活動できる生徒指導体制の確立を図る。
- (4) 学習環境を整えるとともに、生徒の言語活動を促進する。
- (5) 問題行動傾向をもつ生徒の早期発見と早期対応に努める。
- (6) 教育相談活動や生徒理解に努め、学級経営の充実や人間関係の改善を図る。

3 実践の概要

- (1) 郷土を愛し、たくましく未来を切り拓く心を育てる取組

① 第1学年コマクサ保護活動

第1学年が総合的な学習において、「コマクサの保護活動体験を通して、草津の自然環境について考え、郷土についての理解を深めるとともに、勤労・奉仕・協力することの喜びやこれまでの草津中生の努力を知る」ことをねらいとし、「白根山系の動植物の生態」「森林管理署の仕事、治山や森の再生について」をテーマとした講演会、草津の自然環境調べ、天狗山でのコマクサ植えや夏休み中のコマクサ保護パトロール等を行っている。学習にあたっては、「白根山系の高山植物を護る会」を中心に地域の関係機関の方々にお世話になっている。生徒は、コマクサの苗の植え方、ロープ張りなどを教えていただく中で、地域の人との触れ合いを深め、人間的な成長につながった。



天狗山でのコマクサ植えや夏休み中のコマクサ保護パトロール等を行っている。学習にあたっては、「白根山系の高山植物を護る会」を中心に地域の関係機関の方々にお世話になっている。生徒は、コマクサの苗の植え方、ロープ張りなどを教えていただく中で、地域の人との触れ合いを深め、人間的な成長につながった。

② 第2学年職場体験学習

草津町内を中心に、14箇所の事業所の協力のもと、2日間にわたり職場体験学習を行っている。「生徒が地元の職場を理解することにより、草津町の産業の特色を再認識し、郷土愛の精神を養う」ことをねらいとし、職業に携わる人々に出会うことにより、将来の自分の在り方や生き方の自覚を深めるとともに進路選択、キャリア形成の育成を図っている。生徒は、決められた業務への熱心な取組を通して、郷土愛を育み地域理解を深めることができた。

③ 廃品回収活動

6・11月の年2回、「廃品回収の活動を通して、リサイクルの学習、勤労の精神を養うとともに、地域の方と共同で活動することで、郷土を愛する心を養う」ことをねらいとし、保護者の協力のもと、廃品回収活動を行っている。この活動を通して生徒は、ボランティアや環境美化の精神を高めるとともに、地域に対する愛着を高め、社会に参画して地域に貢献する意欲を高めることができた。



(2) 自己有用感や自己肯定感を高める取組

① 一人一人が生き生きと輝く生徒会活動

生徒会では、今年度のスローガンを「Fly High ～憧れ。を超えた、その先へ～」とし、「当たり前前を当たり前前にできる草津中生」「互いに尊重し合える草津中生」「何事にも本気で挑戦する草津中生」を活動方針として掲げ、生徒一人一人が笑顔で学校生活を送れることを大切に様々な活動に取り組んでいる。中でも校内球技大会（6月）、校内体育祭（8月）、草華祭（10月）、予餞会（3月）等の生徒会行事では、生徒一人一人が生き生きと輝く姿が数多く見られ、主体的な活動とともに自己有用感や成就感を味わうことができた。

② あいさつ運動

「みんな一人一人がかけがえのない存在 あいさつで互いの心を通い合わせる第一歩に」を合い言葉に、毎週月・水・金の朝、生徒会本部が玄関において、「あいさつ運動」を行っている。あいさつの声が小さいという全校課題を生徒総会でも話し合い、初めは、声が小さかったあいさつも、次第に大きくなり、爽やかなあいさつで気持ちのよい学校生活のスタートを切ることができるようになった。

③ ピア・サポート活動

本校では、「聞く・伝える・共感する」というピア・サポートの教育相談スキルを異年齢集団の交流の場で活用することにより、生徒の自己有用感（自己肯定感）を育てることをねらいとし、ピア・サポート活動に取り組んでいる。生徒会本部を中心に、生徒会朝礼や生徒会行事の隙間の時間を活用し、異学年交流活動を行った。中でも10月に行った「むし歯予防」をテーマに全校生徒が参加した「学校保健委員会」において、むし歯予防のポスターづくりを異学年グループで行い、全校の前で披露した活動では、10分間という短時間にもかかわらず、協力してお互いのアイデアを出し合い工夫したポスターを完成させるなど成果を上げた。



4 終わりに

本校では、毎週水曜日の3校時を「生徒指導委員会」と位置づけ、「生徒指導上の課題・方針・対応等を明確にして、家庭・地域社会との連携を図りながら、組織的な取組に努める」ことを重点とし、生徒指導主事を中心に、校長、教頭、教務主任、学年主任、特別支援教育CN、養護教諭の参加のもと定例会議を行っている。特に、この生徒指導委員会が「単なる情報交換や情報共有の場」で終わることなく、「課題に対して短期的・長期的な方針・対応策を検討し実効性につながる場」となるように、再確認し取り組んでいる。これにより、各学年の課題を全職員で共有化が図られ、全職員共通理解のもと生徒指導にあたることができた。さらに、若手教員の生徒指導のスキルアップやベテラン教員の指導の振り返りにもつながるなどの相乗効果も見られた。今後も、生徒の様々な課題に対して、全教職員が心をつなげて生徒指導にあたることとともに、「草津町を愛し、自分の力でたくましく未来を切り拓く生徒の育成」に努めていきたい。

I 令和5年度へき地学校教員研修の概要

群馬県へき地教育研究連盟研究部長

高崎市立宮沢小学校長 春山 敦夫

1 令和5年度へき地学校

令和5年度の県内へき地学校について、加盟校数は前年度より2校減の28校である。また、昨年度より児童生徒数は193名減の1,848名、教職員数は21名減の360名となった。へき地学校の児童生徒の占める割合は県内全体の小学校で1.4%、中学校で1.3%となった。

県へき地教育研究連盟としては、へき地の学校の特性や地域性を生かした教育活動を進めるとともに、学習指導の改善やICTの活用など、今日的な課題に対応した教育を推進するための取組を行ってきた。

2 活動方針

- (1) 研究主題 「ふるさとに夢や誇りをもって、未来の創り手となる子どもの育成」
～へき地・複式・小規模校の特性を生かした
学校・学級経営と学習指導の深化・充実をめざして～
- (2) 活動方針
 - ① 本連盟は、群馬県教育委員会、市町村教育委員会、へき地教育振興会等と連携を密にし、へき地教育の充実・発展に努める。
 - ② 本連盟に総務・調査・研究部を置き、広報活動・研究事業の推進、研究成果の収録・発行等を実施する。
 - ③ 本連盟は諸活動を通して、へき地学校教職員の連帯や親睦、指導力の向上、教育の諸条件改善等に努め、へき地教育の一層の充実を図る。
- (3) 活動内容
 - ① へき地関係教育諸情報の伝達及びへき地教育についての理解を深めるため、広報「県へき連」を発行している。
 - ② 毎年、へき地教育研究大会を、県教育委員会及び県へき地教育振興会と共同開催している。令和5年度は高崎市立倉渕小学校を会場として開催した。
 - ③ 県教育委員会及び県へき地教育振興会と連携・協力して、へき地教育の諸課題と研究実践を収録した「板木」を継続発行し、へき地教育の一層の充実と発展に努めている。

3 研究・研修の概要

- (1) 第72回全国へき地教育研究大会兵庫大会 10月12日(木)・13日(金) 姫路市等
来場型とオンライン型の同時開催
- (2) 第72回群馬県へき地教育研究大会 10月16日(月) Aブロック(西毛)
高崎市立倉渕小学校を会場に実施
- (3) 第20回関東甲信越へき地教育研究大会茨城大会 11月9日(木)・10日(金)
水戸市及び久慈郡大子町 来場型(一部オンデマンド配信)
- (4) 第49回全国へき地教育研究連盟研究推進協議会 11月28日(火)・29日(水) 東京都
- (5) 広報「県へき連」第91号発行
- (6) 群馬県へき地教育研究資料「板木」第72集発行

第 2 部

へき地学校教員研修のあゆみ



倉渕小学校の授業の様子（図工）



倉渕小学校の授業の様子（体育）

II 第72回群馬県へき地教育研究大会

〈1〉概要

群馬県へき地教育研究連盟研究部長

高崎市立宮沢小学校長 **春山 敦夫**

1 趣 旨 へき地学校の経営実践や授業実践についての研究協議を通して、群馬県へき地教育の改善・充実に資する。

2 テーマ 『ふるさとに夢や誇りをもって、未来の創り手となる子どもの育成』
～へき地・複式・小規模校の特性を生かした
学校・学級経営と学習指導の深化・充実にめざして～

3 期 日 令和5年10月16日（月）

4 会 場 高崎市立倉淵小学校

5 参加者 群馬県教育委員会 群馬県へき地教育振興会 高崎市教育委員会
安中市教育委員会 西部教育事務所 吾妻教育事務所 利根教育事務所
群馬県へき地校校長

6 日 程

9:00	9:30	9:50	10:50	11:35	12:00
受付	開会行事	全体会 研究協議		学校公開	情報交換

7 開会行事 あいさつ 群馬県教育委員会教育長 群馬県へき地教育振興会会長
高崎市教育委員会教育長 群馬県へき地教育研究連盟理事長

8 研究協議

小学校 (Cブロック)	高山村立高山小学校 校長 佐藤 和昭 ○テーマ 「地域との更なる連携の推進」 ～地域とともにある学校をめざして～
中学校 (Bブロック)	中之条町立六合中学校 校長 桑原 武史 ○テーマ 「ふるさと六合を愛し、主体的に活動する生徒の育成」 ～小規模校の特性を生かした学校経営と学習指導を通して～

9 学校公開 1年生 【国語】 諏訪 成実 教諭 (1年教室)
2年生 【生活】 星名 智弘 教諭 (2年教室)
3年生 【図工】 星野 祐司 教諭 (多目的教室1)
4年生 【社会】 茂木美和子 教諭 (4年教室)
5年生 【体育】 笹井 紀孝 教諭 (5年教室)
6年生 【道徳】 吉村 圭祐 教諭 (6年教室)
あおぞら 【自立】 徳田 昌志 教諭 (あおぞら学級教室)

10 情報交換

〈2〉 提案要旨

《小学校班》

地域との更なる連携の推進

～地域とともにある学校をめざして～

高山村立高山小学校長 佐藤 和昭

1 学校の概要

高山村は、群馬県の北西部に位置した高原地帯であり、周囲を山地に囲まれた中山盆地を中心とした緑豊かな村である。また、群馬県内でも秀でた美しい星空が広がる本村には、国内でも有数の観測能力をもつ「県立ぐんま天文台」がある。村には、現在1,350世帯、3,300人ほどが暮らしているが、人口は減少傾向を続けており、高齢化も進んでいる。

こうした村の状況下、地元住民の教育に対する期待は高く、自治体として早くから学校教育への理解と支援体制の充実が見られ、村教育委員会を中心に、学校教育における先進的な教育の推進と充実に力を注いでいる。

そのような環境の中、本校では、ICTを活用した教育の充実に早くから着目し、授業へのICT活用を進めるための研究を継続し進めている。こうした背景として、令和2年度より3年間にわたり、群馬県教育委員会の指定を受け、「ICT活用促進プロジェクト事業」の拠点校として、授業におけるICTの活用事例を広く群馬県内の小中学校に向けて示していくための実践研究を推進してきた。

2 実践の概要

(1) 研究主題設定の理由

現在の社会的な背景において、激しい社会環境の変化によって「地域」、「家庭」、「学校」における課題が問題視されている。「地域の課題」としては、地域のつながりや支え合いの希薄化や地域から子供や若者がいなくなり、地域の存続が危ぶまれることなどが考えられる。また、「家庭の課題」としては、家族形態の多様化、ヤングケアラーの増加、子育てに不安や悩みを抱える親の増加などが考えられる。「学校の課題」としては、職務の多様化や多忙化、いじめや不登校の増加、保護者のニーズの多様化などが考えられる。これらの「地域」、「家庭」、「学校」における多様化する課題をそれぞれ個別に対応するのは困難であり、社会総がかりでの対応が必要である。

また、本村では、令和3年度より「コミュニティ・スクール」を導入しており、3年目を迎えている。また、国や群馬県では、「コミュニティ・スクール」と「地域学校協働活動」の一体的な推進を呼び掛けている。昨年度までは、コロナ禍の中で、十分な活動ができない状態であったが、今年度は、コロナ前の日常生活を取り戻す動きがあり、コミュニティ・スクールも本格的に再始動する状況下である。

以上のことから、子供たちを村内全体で育てる意識を高めたいと考え、上記の主題と副主題を設定することとした。

(2) 実践の内容

① 教職員へのコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の周知と意識改革

教職員自身が、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動についての知識が不十分であると考え、以下の実践を行った。

- ・学校と地域のパイプ役である『地域コーディネーター』より、地域住民との関わり方などの紹介をしてもらった。例えば、調理実習の時に人手が足りない場合、図工の材料として木々等が必要な場合など、教職員が困っていることを地域コーディネーターがニーズに合った方を紹介するなどのサポート体制について説明をもらった。



【社会教育主事による講話】

- ・教職員には、年間を通して、行事・教科・単元の中で地域住民が関われそうなものを洗い出してもらっている。【現在進行中】
 - ・吾妻教育事務所の社会教育主事を講師に招き、「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進に向けて」の、講話を聞いた。
- ② 学校運営協議会を通しての学校から地域への情報発信
- コミュニティ・スクールを導入していることにより、学校運営協議会が設置されているため、その協議会において、自校の実態を情報提供した後、学校からの要望等を地域の方へ伝え、その協議会で検討してもらう。【現在進行中】
- なお、学校運営協議会の委員は、教育長を始めとする村教育委員会、元村長、元副村長、民生児童委員長、スポーツ協会長など、地域の様々な方で構成されている。
- ③ 授業における実践事例
- 上記①で教職員が地域の方々と関われそうな行事・教科・単元を洗い出したものを実践した。【現在進行中】



4年図工「木工制作」
建築家の方に廃材をいただき、さらにのこぎりの使い方も指導してもらいました。



2年生活科「野菜の苗植」
4名の農家の方々に、今後の野菜の手入れについても指導してもらいました。



「プール清掃」
村の消防団の方々が消防車を活用して清掃の支援をしてくれました。

3 まとめと今後の課題

<まとめ>

今回の研究を通して、へき地と言われる地域では、人口減少や高齢化という問題はあるが、学校と地域の方々との距離が近く、さらに学校だけでは対応できない事案でも、地域・家庭・学校が三位一体になることにより、対応できることを実感した。地域コーディネーターの協力のもと、2学期以降さらに行事や授業の中で子供たちと地域の方々の交流を増やしていきたいと思っている。また、学校から地域への感謝の思いや成長した姿などの情報発信の強化に努めていきたい。

<今後の課題>

コミュニティ・スクールや地域学校協働活動については、年度をまたいでの継続的な取組が多いため、これまで（昨年度まで）の取組よりも更なるよい取組にするための振り返りをしないことが懸念される。常に子供の視点に立ち、地域・家庭・学校が最適を目指すことが重要である。今後も形骸化しないよう組織的な取組を心がけていきたい。

《中学校班》

ふるさと六合を愛し、主体的に活動する生徒の育成

～小規模校の特性を生かした学校経営と学習指導を通して～

中之条町立六合中学校長 桑原 武史

1 学校の概要

本校の学区は、群馬県北西部、標高600m～2,300mに位置する中之条町の旧六合村地区である。学区域の大半は山林で、南北に白砂川が流れ、その谷あいには集落が点在する花卉栽培が盛んな地域である。地域内には、高山植物の宝庫である野反湖、湿原が点在する芳ヶ平、天然記念物のチャップミゴケの群生地など、豊かな自然があり、これらの自然とともに育んできた伝統文化が、今も多く残されている。学区内には、こども園、小学校、中学校がそれぞれ一つずつあり、運動会や文化祭などの行事を合同で開催している。

本校は、昭和22年に六合村立六合中学校として創立された。平成5年の六合村立入山中学校との合併を経て、平成22年の中之条町と六合村の町村合併により中之条町立六合中学校となり現在に至っている。本年度の生徒数は、1年生4名、2年生4名、3年生1名の計9名であり、単独の中学校としては県内最小のへき地1級の極小規模校である。

地域との結び付きが強く、学区域の伝統・文化・自然等を調べる「ふるさと研究」、環境教育の一環として取り組んでいる「シラネアオイ保護活動」、地域人材を指導者に迎えて取り組む武道「弓道」の授業と「弓道部」の設置等、特色ある教育活動を実践している。

2 実践の概要

(1) 研究主題設定の理由

学校教育目標に「強い意志と創造力をもった、心身ともに健康で、人間性豊かな生徒の育成」を掲げ、その実現に向け、学校生活全体を通して、自己存在感を実感できる活動、共感的人間関係が構築できる活動、一人一人の自己決定の場を取り入れた活動が展開できるよう、教職員一丸となって指導に当たっている。また、少人数のよさを生かして、個の課題に応じたきめ細かな指導を行うことで基礎学力の向上を図るとともに、自分の気持ちや考えを適切に表現できる生徒の育成を図っている。人間関係が固定化してしまうという少人数集団の弊害はあるものの、全生徒がリーダー的立場を経験するなど、校内において個々の活躍の場面があるという点では他校に比べて保証されている。一方、大きな集団の中に入ると萎縮し、自己主張することを躊躇してしまうような場面が見られる。

少人数であることの利点を生かして生徒個々の力を伸ばすとともに、ふるさと六合に対して誇りをもてるような学習活動を展開することで、自分に自信をもち、主体的に自己を発揮できるようになると考え、本主題を設定した。

(2) 実践の内容

① 「六合ふるさと研究」の実践

ふるさとを愛し、地域を大切にしようとする生徒を育成するために、総合的な学習の時間に「六合ふるさと研究」に取り組んでいる。この学習は、統合前の入山中学校で行われていた地域学習の「入山研究」を、統合後に名称を変更して引き継ぎ、継続してきている歴史と伝統のある学習である。六合地区の自然や歴史、生き物、特産物、伝統工芸等について体験的・探究的に学ぶことを通して、ふるさとを誇りに思う気持ちや郷土を愛する心情を深め、自己肯定感を高めるとともに自己の生き方を考えることを目標としている。学習の過程では地域の方々にインタビューを行ったり、講師として指導していただいたりする場面があり、地域の方々と触れ合う貴重な機会となっている。全校縦割りの班で研究を行い、11月に開催される園小中と地域合同の文化祭で、研究成果の発表を行っている。

② シラネアオイの保護活動

平成8年から、野反湖畔の八間山の麓でシラネアオイの保護活動に取り組んでいる。以前は苗の植栽も行っていましたが、ここ数年は苗の育ちがよくないため、秋に環境整備の草刈りを行っている。春には、古代紫の美しいシラネアオイが斜面に咲き誇る様子を全校で見学に行く。これまでに約90,000本の苗を植えている。貴重な高山植物を保護する活動は、そこを訪れるたくさんの人々に感動を与えると同時に、生徒たちが郷土に誇りをもつことにつながっている。

③ 武道「弓道」及び「弓道部」の取組

地域の特色を生かした学校づくりとして、平成27年度に「弓道部」を設置、地域の方を指導者に迎えて活動を開始した。平成30年度には、保健体育の武道の授業として「弓道」をスタートさせた。令和元年度からは武道推進モデル校の指定を受け、体力向上や武道指導の充実を図ってきた。令和2年度から3年度にかけては、新型コロナウイルス感染症の拡大により柔道の授業では技を掛け合うような授業内容の実施が難しい状況になっている。そのような状況で、他者との接触がなく、ソーシャルディスタンスを確保できる弓道を武道の授業として実施することは、より一層意義が感じられるものであった。弓道部を設置したことを一つのきっかけとして、武道の授業で弓道への取組が始まり、卒業するまでに全員の生徒が弓道を体験できることが、学校の特色の一つとなった。また、地域人材を活用し、地域の方々と触れ合う体験となり、開かれた学校づくりにつながるとともに、地域の伝統や文化を学び、地域を誇りに思える生徒の育成につながった。

④ 「主体的に活動する生徒」の育成

進んで取り組もうとする姿勢が弱いという生徒の実態から、目指す生徒像として「主体的に活動する生徒」を設定し、「生徒全員がリーダー」というスローガンを掲げ、全ての教育活動を通して自ら考え進んで活動できる生徒の育成を目指している。

また、主体的に学習に取り組む生徒を育成するため、今年度から①期末テストを廃止して評価を単元テストで行う、②単元の指導計画を工夫することで、生徒の興味・関心を高め、単元を通して持続するようにする、③単元毎の評価になるため、それに向けて日常的に家庭学習の充実を図る、という三つの取組を中核にして、校内研修とも関連させて学習指導の充実を目指し、学力向上に取り組んでいる。

3 まとめと今後の課題

- ・「子は地域の宝」と、六合の方々からよく聞かされる。学校を大切に思い、地域全体で子供たちを温かく見守っていただいていると常々感じている。そのような環境の中で育てられた子供たちは、元々「六合が大好き」という気持ちをもっている。学校の役割はその気持ちを確かなものにする事と考え、地域学習や環境保護活動、学習を通じた地域の方々との触れ合いを大切にした教育活動を展開してきた。
- ・「六合ふるさと研究」は、昨年度から班による研究から個の研究にシフトしている。一つのテーマを3年かけて突き詰めていくことで、質的により高めていくことを目指している。3年かけて研究していくに値する内容を考えてテーマを設定するには、教員側もある程度の見通しがもてていないと指導ができないため、特に異動してきたばかりの教員には難しい面があり課題である。
- ・シラネアオイの保護活動は、以前のように苗の植栽から関わることが理想であるが、現在は難しい状況にある。学校で苗の生育が可能かどうか、関係機関と検討を始めるところである。
- ・弓道は技術の習得に時間がかかるため、基本動作の鍛錬の時間と実際に弓を射る時間等のバランスが難しい。また、外部指導者に頼っているため、今後も継続的に指導者を確保することが可能かどうか不安な面がある。さらに、部活動地域移行の流れの中で、技術指導以外の部分もお願いしていくことは現状では難しさを感じる。
- ・現在、六合小学校の6年生が8名、5年生が5名という在籍である。この先3年程度は今より若干生徒数が増加する見込みである。極小規模の学校として、可能な限りデメリットをメリットに転換するという方針で学校経営に努めているが、今以上に生徒数が減少した場合、学校教育の「集団生活を通して学ぶ」という部分をカバーしていくことはより難しくなると思われる。

Ⅲ 第20回関東甲信越へき地教育研究大会（茨城大会）

〈1〉概要報告

群馬県へき地教育研究連盟副理事長

沼田市立利根中学校長 田村 学

「ふるさとに夢や誇りをもって、未来の創り手となる子どもの育成 ～へき地・複式・小規模校の特性を生かした学校・学級経営と学習指導の深化・充実をめざして～」を研究主題として、第20回関東甲信越へき地教育研究大会が、令和5年11月9日から2日間にわたり水戸市を中心に開催された。本大会は参集とオンデマンド配信によるハイブリッドの大会であった。1日目はホテルテラスザガーデン水戸を会場に関東各地からへき地教育研究連盟会員の参加により、全体会や分散会が行われ、本県からはへき地学校長の10名が参加した。2日目は大子町内三つの小中学校で授業が公開され、各分科会場で研究の成果が発表された。

◇第1日（11月9日）「全体会・分散会」

全体会前のアトラクションとして、茨城県無形民俗文化財に指定されている「浅川のささら」（浅川のささら保存会）が披露された。300有余年の伝統を受け継ぐ熊野神社に伝わる獅子舞は、大変迫力があり会場からは大きな拍手が送られた。

全体会の開会式では、茨城大会実行委員長の開会の言葉に続き、国歌及びへき地教師の歌「太陽となろう」を斉唱し、主催者あいさつ（大会長）、祝辞（茨城県教育委員会教育長、水戸市長、大子町長、全国へき地教育研究連盟会長）があった。基調報告では、茨城県実行委員会研究部長より全国へき地教育研究連盟の第9次長期5か年研究推進計画の方針に基づいた報告が行われた。今年度はこの計画から5年目となり、これまでの実践・検証期の最終年度となる。学校の統廃合が進む厳しい現状の中でも、我が「ふるさと」のよさを実感し、恵まれた自然や地域独特の文化・伝統等を再確認しながら、学校の特性を生かした教育を展開していくことが重要だと報告があった。

後半の分散会は、3カ所に分かれて行われた。学校・学級経営及び学習指導の深化・充実に寄与することを目指し、それぞれの発表校が6つの研究課題から自校の教育課題に即して選択し、研究主題に沿って発表した（茨城県3校、栃木県1校、新潟県1校、群馬県1校）。本県からは、高崎市立倉渕中学校が「自ら課題を見つけ、対話を通してより深い学びを得ようとする生徒の育成 ～ICT機器の効果的な活用や、対話的な学習活動の工夫を通して～」と研究主題を設定して実践を発表した。各会場では今後の教育活動の充実に向けた活発な研究協議が行われた。

◇第2日（11月10日）「授業公開及び分科会」

2日目は、茨城県下三つの小中学校（大子町立さはら小学校、大子町立生瀬小学校、大子町立南中学校）に分かれ、研究主題に沿った授業が公開された。その後、それぞれの学校での実践発表と授業参観後の研究協議が行われた。

〈2〉分散会報告

第二分散会 課題2発表

研究主題

自ら課題を見つけ、対話を通してより深い学びを得ようとする生徒の育成

～ICT機器の効果的な活用や、対話的な学習活動の工夫を通して～

高崎市立倉渕中学校 校長 大塚 浩文

1 主題設定の理由

本校は、昭和36年に開校し、今年で62年目を迎える全校生徒71名の県1級へき地校である。実りある豊かな自然環境の中で、平成18年に地元の木材をふんだんに使った木造校舎を新築し、この校舎で郷土愛を育み、地域の方々と連携・協働しながら様々な教育を推進している。

平成30年4月、校区内に「くらぶち英語村」が開村し、英語を日常的に活用する力を身に付けるため全国各地から集まった山村留学生（以下留学生という）が本校に毎年12、3名ほど通うことになった。これまで地元唯一のこども園、小学校からエスカレーター式、クラス替えなしで進級してきた生徒たちにとって、留学生の存在は、人間関係を築くための新しい風となっている。

学習指導要領では、各教科の目標及び内容が育成すべき資質・能力の三つの柱として「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」に沿って再整理された。そして、そのことで「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を推進し、「指導と評価の一体化」が実現されやすくなることが期待されている。また、GIGAスクール構想において一人一台端末を活用することが令和の教育のスタンダードとなりつつあり、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実を図る上でも有効なことから、授業内外での積極的な活用が求められている。本校では、平成31年から産学官ICT連携事業のモデル校になり、いち早くタブレットに触れることができたこともあり、各教科の授業でタブレットを活用した授業実践に取り組んできた。また、コロナ禍で限定的な条件ではあるが、ペアやグループなど様々な学習形態での活動もしてきた。一方、生徒が「深い学び」を得られたかどうかについては検証が難しく、「指導と評価の一体化」という点でも、まだまだ課題が残った。

そこで、前年度の課題の解決を意識しながら、生徒の分かる喜びや個性の伸長を重視した指導計画の改善・充実を図り、今年度も上記の主題、副主題で研修を進めることとした。

2 実践の概要

(1) 仮説

深い学びを得るためには、内的な好奇心を誘発することが必要であろう。そのために、自らの意見や考えをもち、それをもとに対話を通して学習活動することは、はじめに考えた意見や考えを修正、深化させ、深い学びを得ることができるであろうと仮説を立て以下の二つを実践した。

- ① 課題を多面的・多角的に捉えるために、ICT機器を使用した。
- ② 生徒自身が主体的に学び、学びを俯瞰して見える化するために、単元構想を意識した振り返りシート（以下振り返りシート）を作成した。

(2) 実践の内容

- ① 実践1：社会科「多面的・多角的に考えるための思考ツールの活用と対話的な学習活動」
ア 自分の考えを伝え、相手の意見を聞く姿勢を作るため、導入の場面においてペアで本時の学習内容に関連した既習事項について伝え合い、全体で共有する活動を取り入れる。
イ 事象を多面的・多角的に考えることができるように、ロイロノートの思考ツールを使っ

て分かったことをまとめさせる。具体的には、Xチャートを用い、アフリカ州の「歴史」「産業」「資源」「その他、自然」の四つの視点で多面的・多角的に考えさせた。

ウ 多様な見方、考え方に気付かせるため、資料の読み取りを個人で行った後、グループで内容を共有させる。

エ 学習の積み重ねを実感しながら思考の深まりに気付かせる。単元のまとめの活動で、より主体的に深く考えることができるようにするために、自分の知っていることや授業を受けて分かったこと、友達の意見をそれぞれカードの色分けをしながらロイロノートに記録、分類させる。

② 実践2：単元構想を意識した振り返りシートの作成

ア 授業を計画する上で、単元構想を大事にすることは、以前から本市では重要視されており、指導案作成時には欠かせない資料となっている。

イ 単元を学ぶ上で単元を貫く課題や振り返りシートを活用することで、生徒が主体的に学ぶことができるのではないかと考え、特に単元を見通せることができる振り返りシートの改善、充実を図ることにした。これは、単元全体を俯瞰して考えることができるもので、生徒も教師も単元を見通し、振り返ることができ、学びの積み重ねや深まりを実感できるシートである。

ウ 振り返りシートは、ワードやエクセルで作成し、PDF化してタブレットを通して生徒に配付する。

エ タブレット内でPDF化された振り返りシートに書き込みができる付箋を用意し、本時で分かったことや考えたこと、対話を通して変化した自分の意見などを書き込ませる。

オ 教師にとっても、タブレットに提出された振り返りシートを確認することで、生徒一人一人の学びの状況やどこでつまづいているのかなどを見取ることができ、次への指導に生かすことができる。

3 まとめと今後の課題

<まとめ>

- ① ICT機器の活用で視覚に訴える教材を必要な場面で速やかに提示することができ、多面的・多角的に課題を捉えることに役立った。
- ② ICT機器を活用することで生徒同士の考えの共有や意見交換が今まで以上に早く簡単にできるようになったことで、級友の意見や考えを自己の学びにつなげる機会が増えた。
- ③ 個人の知識や考えだけに留まらずペアやグループなどで対話を増やすことで、考えや表現が徐々に豊かになってきた。多様な知識や意見を「広げる」「まとめる」「整理する」ことにつながる実践ができた。そして、生徒同士で説明することで、自他共に学びを深めることができたと感じられ、学び方についての意識の変化も起きた。
- ④ 振り返りシートを記入することで、自身の学習履歴が積み重なり、単元の終盤では振り返りシートが単元構想を意識して作られているので単元全体を見渡すことが容易になった。
- ⑤ 点と点のバラバラな知識が線や面となる知識に広がり、深い学びに繋がったと考えられる。
- ⑥ 振り返りシートは教師も単元を見通しやすくなり、生徒の現状を把握しやすく、「指導と評価の一体化」を進める手立てとして有効だった。

以上のことから、仮説が深い学びを得ようとする生徒の育成に有効であったと考えられる。今後も更に研修を進めていきたい。

<今後の課題>

生徒が「何を学んだのか」、「どのように学んだのか」、「学んだことをどのように生かせるのか」について、振り返りシートで感じ取らせることができるものになるよう、更に深化させていきたい。

〈3〉公開授業報告

ふるさと「さはら」を愛し、自分の思いや考えを 伝え合う子どもの育成

～地域の特色を生かした体験活動を通して～

片品村立片品小学校長 小林 菊江

1 会場校 茨城県大子町立さはら小学校（学級数3 児童数20名 職員数13名）

2 学校の概要

茨城県久慈郡大子町の北西部に位置し、栃木県に隣接した学校である。平成8年までに3小学校が統合し、開校当時は150名を超える児童が在籍したが、平成30年度からは完全複式学級となる。本地区は奥久慈茶の産地であり、茶畑や山々に囲まれた自然豊かな地域である。保護者や地域の方々の協力のもと、茶摘みや米作りなど多くの体験的な活動に取り組んでいる。

3 研究の概要

(1) 研究の内容

- ① 話し合い活動を通して、自分の思いや考えを互いに伝え合う力の育成
「さはらっ子総会」での話し合い活動
- ② 地域の特色ある体験活動を通し、ふるさと「さはら」のよさを見つけ、発信する力の育成
起業体験活動『夢道場』…野菜栽培活動と「さはらファミリー会社」での販売活動

(2) 公開授業

全学年【特別活動】「未来につなごう ふるさと『さはら』」～夢道場の活動を通して～
児童会活動「第6回 さはらっ子総会」 議題「秋の道の駅販売を振り返ろう」

4 授業研究会並びに情報交換会の様子

授業研究会では、4テーマ（①地域の特色・小規模の特性を生かした体験活動について、②話し合い活動・自分の思いや考えを伝え合う力の育成について、③起業体験活動について、④本時の授業について）から各グループごとに視点を決め、12の協議が行われた。グループ協議の発表では、カリキュラム編成の疑問点や低学年グループの話し合いでも自分たちなりによりよい夢道場の活動が考えられていた点、伝統の継承の難しさとその解決策等が挙げられた。

また指導・助言では、小規模校のデメリットをどのようにメリットとして捉えるかについてが話題として提供され、「教師と児童生徒の信頼関係形成」「異年齢・異世代の関係作り」「個々の到達点に合った学習・生活指導」「子供同士の共同活動・グループワーク設定」「子供の発言・発表機会の確保」「地域特性を生かしたカリキュラム編成」「自然体験学習・農業体験学習の設定」「全員の役割分担による運営」「地域への公共活動・ボランティア活動の設定」「教師間の情報共有」の10点がメリットとして指摘された。

5 所感

公開授業は最初と最後を「さはらっ子総会」の形式で全校で行い、中心となる「秋の道の駅販売の振り返り（話し合い活動）」は低学年（1～3年生）と高学年（4～6年生）に分かれて展開された。低学年では全員が「さはらファミリー会社」の「さはらJr.」に所属し、今後自分たちが活動する際の改善点や希望が発表されていた。高学年ではさらに各自が所属する「社長」「生産部」「販売・広報部」に分かれ、その立場における課題と改善点を検討していた。どの部にも地域人材のゲストティーチャーが配置され、適切な助言や情報提供が行われた。

授業中の児童たちの発言の様子や、会社の会計事務まで児童に行かせたところ、さらに今年の収益の運用についても児童が決定したい旨の申出が社長からあったという校長先生のお話から、模擬会社体験が児童主体の学習となっていることを強く感じた。

未来を幸せに生きる力を育む 主体的・対話的で深い学びの推進

～豊かな自然環境とICTの活用を通して～

長野原町立北軽井沢小学校長 土屋 学

1 会場校 茨城県大子町立生瀬小学校（学級数4 児童数32名 職員数13名）

2 学校の概要

大子町立生瀬小学校は、水戸駅から県北へ60kmほどの距離にあり、近くには日本三名瀑の一つに数えられる「袋田の滝」がある。生瀬小学校は令和5年度から完全複式学級となり1・2年生8名、3・4年生12名、5・6年生12名の全校児童32名の小規模学校である。

3 研究の概要

(1) 研究・活動の内容

- ① 学校周辺の自然環境を活用した探究的な学習活動として、生瀬地区の生きものや草花について児童の興味・関心を高めるとともに課題解決能力を養い、地域の自然の特徴やよさに気付かせたいとしている。
- ② 地域住民、筑波大学留学生、台湾介達國小学校との交流活動では、オンラインや対面での異文化交流を定期的に行い、言葉が伝わらない人へはどうしたら自分の考えや気持ちを伝えることができるのかを、児童一人一人に考えさせることで、新たな発見や気付きのある深い学びへと発展させコミュニケーション能力を高めている。

(2) 公開授業

- ① 1・2年（複式）【生活科】「なませ はっけん！！（生きものや草花をみつけよう）」
「昆虫教室」を行い、調べたことや考えを筑波大学の昆虫の専門家を招いたり、オンラインを活用するなど交流する場を設定し、交流の場面では、根拠を明らかにして相手に分かりやすく表現することや、友達の意見も積極的に取り入れてまとめていた。
- ② 3・4年（複式）【総合】「生瀬 発見！！（自然のよさを伝えよう）」
生瀬地区の地域の方や保護者、筑波大学の留学生との交流活動を通して、大子町の自然や農業、観光などの郷土について探究的な学習に取り組み、自然環境に関わる一員としてその特徴やよさを調べ、自分の町のよさを紹介した。
- ③ 5・6年（複式）【総合】「生瀬 発見！！」
学校林である「ふれあいの森」での緑の少年団活動を中心とした取組を振り返り、まとめて筑波大学附属聴覚特別支援学校の児童に向けて表現する活動であった。発表そのものが授業のねらいではなく、分かりやすく相手に伝えることがおさえられていた。

4 研究協議会の様子

山間部にある児童数の少ない小規模校の児童が、急激な社会の変化に対応しながら、主体的に生きる力を身に付けさせるために、児童の実態を丁寧に分析し、生瀬小学校ならではの実践が工夫されていた。説明の中の「どうやって相手に伝えるか」という言葉が印象的であった。生瀬小学校では、筑波大学の留学生（多国籍言語）や台湾介達國小学校などとの交流を進めていく中で児童に大きな変化が出てきていることを成果として挙げていた。

5 所感

今回の茨城大会へ参加し、改めてへき地小規模校が直面している学校課題が多岐に渡っていることがわかった。しかしながら小規模校ならではの取組や小規模校ではできない活動も多くあることに気付いた。子供たちに、これから急激に変化していく社会に対応していく能力を身に付けさせていくことが我々教職員の使命であると感じた。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた 各教科等の指導計画の在り方

～各教科等の単元を見通した指導計画における
ICT機器活用の工夫による授業改善を通して～

高山村立高山中学校長 石関 博之

1 会場校 茨城県大子町立南中学校（学級数3 生徒数28名 職員数14名）

2 学校の概要

大子町は茨城県の最北西部にある。町の約80%は山岳地で、町の中央部を久慈川が縦断している。日本三名瀑の一つである袋田の滝をはじめ、久慈川の清流、奥久慈温泉郷などの観光資源が豊富であり、県内有数の観光地である。南中学校は「生徒一人一人の能力を開発し、個性を生かす教育を展開し、社会の中で心豊かにたくましく生きる力を育成する」を教育目標にして、日々の教育活動に取り組んでいる。また、グランドデザインに示した向上、感謝、決意、貢献の「四つのK」をすべてのクラスで学級目標に掲げて、今年度はICT機器を活用した授業実践や豊かな自然を生かした体験活動を行っている。

3 研究の概要

(1) 研究・活動の内容

- ① 「主体的な学び・対話的な学び・深い学び」それぞれの学びが活性化するICT機器の活用
 - ・「単元計画表」を作成し、「主体的・対話的で深い学びの実現」のためのICT機器活用を明記する。
 - ・学習形態の工夫をする。知的構成型ジグソー法を活用した探究的学習を、単元計画に取り入れ、ICT機器を効果的に活用し「主体的・対話的で深い学びの実現」を図った。
- ② 1時間の学習の過程で効果的なICT機器活用
 - ・1単位時間におけるICT活用の「場面」「手段」「ねらい」の位置づけが一目で分かるように一覧にした「ICT活用表」を作成した。

(2) 公開授業

- ① 1年【理科】「音の性質」
- ② 2年【数学】「平行と合同」
- ③ 3年【英語】「Unit 6 Beyond Borders」

4 授業研究会並びに情報交換会の様子

話合いの視点を「主体的・対話的で深い学び」の実現が図られた授業改善になっているかとして、グループごとにKJ法による話合いが行われた。付箋紙（改善点は青・利点は赤）に教科名や話合いの視点を書き込み、コメントを付け加えながら模造紙に貼りつけた。また、類似した意見ごとに線で囲み、見出しを付けてまとめた。時間の関係で、代表グループが全体に発表することで授業研究会とした。最後に義務教育課指導主事より指導助言を頂いた。

5 所感

生徒用の端末や大型モニターなど様々なICT機器の環境が整えられていた。主にGoogle Workspace for Education を活用して、ねらいや目的をもったICT機器の活用を追究している。生徒たちの活用技術が高く文房具の一部として、授業中での活用がなされていた。総合的な学習の時間には、プレゼンテーションタイムが行われ、ICT機器を活用して自分のテーマについてまとめたプレゼンを全校生徒の前で発表しており、表現力が身に付いている。小規模校でもICT機器の工夫をすれば、多様な学習スタイルを見出し、生徒一人一人の力を伸ばせることを広く発信できていたと思う。

Ⅳ 第72回全国へき地教育研究大会（兵庫大会）

〈1〉概要報告

群馬県へき地教育研究連盟研究部長

高崎市立宮沢小学校長 春山 敦夫

第72回全国へき地教育研究大会が、文部科学省、全国へき地教育研究連盟、兵庫県教育委員会等の主催により、令和5年10月12日(木)～13日(金)の2日間にわたって姫路市を中心に開催された。本大会は、昨年度と同様に、参集とオンラインによるハイブリッド型の大会となった。さらに本大会は、第38回近畿へき地教育研究大会兵庫大会、第62回兵庫県へき地・複式教育研究大会としての位置づけでもあった。群馬県からは理事長、研究部長の2名の校長が兵庫県での大会に参加した。このほかにオンラインでの参加者もいた。

◇大会前日(10月11日)「全国へき地教育研究連盟秋季総会」

令和5年度秋季総会が、10月11日(水)午後には姫路市市民会館にて開催された。第10次長期5か年研究推進計画へのスムーズな移行について確認がなされた。

◇大会第1日(10月12日)「全体会・分散会」

全体会開会式は、兵庫大会実行委員長の開会の言葉に続き、国歌及びへき地教師の歌「太陽となろう」を斉唱し、主催者として、文部科学省初等中等教育局長、兵庫県教育委員会教育長、全国へき地教育研究連盟会長の挨拶があった。

基調報告では、まず全国へき地教育研究連盟 温泉敏 研究部長から、第9次長期5か年研究推進計画5年次の概要説明があり、続いて兵庫大会実行委員会 西岡教敬 研究部長から、兵庫県の取組に関する報告がなされた。

講演会は、「タカラジェンヌからダリアジェンヌへ 華麗に変身！」と題して、元宝塚歌劇団雪組所属 現ダリア農家・ダリアジェンヌ代表である梓晴輝氏の講演があった。

講演終了後、次年度開催地である岡山県大会実行委員長の挨拶や大会旗の引継が行われ、全体会を終了した。

アトラクションは、丹波篠山市立西紀北小学校児童、兵庫県立篠山鳳鳴高等学校デカンショバンドの生徒による「丹波篠山デカンショ節」が披露された。

午後は、姫路市市民会館にて、全国第9次長期5か年研究推進計画研究課題別に課題1から課題6までの6つの分散会に分かれ、それぞれ2校(全国ブロック1校、近畿ブロック1校)の発表をもとに活発な研究協議が行われた。

◇大会第2日(10月13日)「授業公開・分科会」

2日目は、兵庫県下8小中学校(A加東市立鴨川小学校、B三田市立母子小学校、C「一宮北学園」宍粟市立一宮北小中学校、D姫路市立家島小学校、E豊岡市立但東中学校、F洲本市立都志小学校、G洲本市立五色中学校)で授業が公開され、その後A～Gの8分科会で、開会式、各学校(地域)の研究発表及び研究協議、閉会式が行われた。

〈2〉分科会報告

C分科会

夢と自信をもち ころろ豊かで 自立する 一北っ子の育成

～自ら考えを伝え合い、学びを深めようとする活動を通して～

群馬県教育委員会義務教育課 神戸 恵美子

- 1 会場校 宍粟市立一宮北小学校（学級数 9 児童数98名 職員数18名）
一宮北中学校（学級数 5 生徒数66名 職員数15名）

2 地域・学校の概要

宍粟市の北東部に位置し、令和3年度からは併設型小中一貫校（愛称「一宮北学園」）として小中一貫教育が始まり、今年で3年目を迎える。校種を越えた授業や児童生徒理解・授業づくりなどの合同職員研修、合同で行事を行うなど「一宮北学園」としての教育活動を進めている。

3 研究の概要

(1) 研究内容

- 地域教材を活用したふるさと学習の推進（防災教育）
- 性の多様性を中心にした人権教育の推進（人権教育）
- キャリア教育の視点を活かした学習の推進（キャリア教育）

(2) 公開授業（参集型、オンライン型の同時開催）

1年：学級活動 2年：生活科 3、4、5、7、9年：総合的な学習の時間
6、8年：特別の教科 道徳 【※オンライン配信 1校時 4、8年 2校時 3、9年】

4 所感

総合的な学習の時間では、小・中学校共にそれぞれの課題解決に向けてグループで協力しながら活動する姿が見られた。小中一貫校の特色を生かし、9年間の学びの連続を意識した教育活動が進められており、公開授業においても充実した授業実践が行われていた。

D分科会

気づき、対話し、行動しようとする児童の育成

～海から始まる学びの一步を、児童の主体性につなげて～

高崎市立宮沢小学校長 春山 敦夫

- 1 会場校 姫路市立家島小学校（学級数 6 児童数38名 職員数15名）

2 地域・学校の概要

家島町は姫路市の沖合18kmに浮かぶ家島諸島の家島本島に所在し、採石業、漁業、海運業を主な産業としている。家島小学校ではこのような地域の特色を生かし、家庭や地域と連携した教育活動を展開している。

3 研究の概要

(1) 研究内容

ふるさとの海を学びの出発点とし、社会と積極的に関わり、自ら行動しようとする児童の育成を目指し、体験的、探究的な活動に取り組む「家島うみの時間」を設定する。

(2) 公開授業

5年 社会科【オンライン配信授業】 6年 算数科
3～6年 総合的な学習の時間 「家島うみの時間（中間発表会）」【オンライン配信授業】

4 所感

児童の学びを他人事から自分事へと転化することを目指した「家島のうみの時間」は、児童の主体性を育み、地域理解や、郷土への愛着を深めることができる取組であった。ICT機器を効果的に活用した情報発信、学びの場の拡充や質の向上を目指した5か年計画など、特色ある取組が多く見られた。

G分科会

ふるさとに誇りを持ち、自立して未来を豊かに生きぬく生徒の育成

～地域の偉人、歴史、伝統文化を学び、つながりを大切にする心を育む～

婦恋村立婦恋中学校長 小池 裕生

1 会場校 洲本市立五色中学校（学級数9 生徒数210名 職員数21名）

2 地域・学校の概要

淡路島の中西部に位置し、東に霊峰先山を仰ぎ、西は瀬戸内海に沈む美しい夕陽が見られる中山間にある。校区には小学校が5校であり、農漁業に従事する家庭が多かったが、近年は兼業農家やサラリーマン家庭が増加している。健康と福祉の町を標榜した旧五色町の行政努力により、医療機関の充実、企業誘致、宅地開発により人口の増加が図られたが、近年は生徒数は減少傾向にある。

3 研究の概要

(1) 研究内容

○学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

○地域社会との関わりを通して社会の一員としての自覚を持たせるとともに、自己を理解し、自己を生かそうとする態度を養う。

(2) 公開授業（参集型・オンライン型の同時開催）

1年 総合的な学習の時間 及び 2年 総合的な学習の時間

4 所感

地域の偉人「高田屋嘉兵衛」の偉業を学習すると共に、「高田屋太鼓」の演奏を継承しながら活気溢れるまちづくりのために活動している地域の方々の想いに共感して主体的に取り組む姿が見られた。また、「福祉のまち五色町」と自分たちの関わりを探究する学習を通じて、地域の一員としての自覚や自分の生き方を考える学習からも、郷土愛の醸成につなげていた。

資 料

I 令和5年度へき地学校資料

<1>級別へき地学校数

令和5. 5. 1現在

級別 校種別	県準	特地	国準	1級	2級	3級	4級	A計 分校	B県全体 分校	A/B
小学校	4	3	3	6	1	0	0	17 0	299 2	5.7%
中学校	2	1	4	4	0	0	0	11 0	151 1	7.3%
計	6	4	7	10	1	0	0	28 0	450 3	6.2%

<2>級別へき地本校分校別学校数

()内は、内数で休校中の学校である。

令和5. 5. 1現在

級別 校種別	県準	特地	国準	1級	2級	3級	4級	小計	合計	
小学校	本校	4	3	3	6	1	0	0	17	17
	分校	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中学校	本校	2	1	4	4	0	0	0	11	11
	分校	0	0	0	0	0	0	0	0	0

<3>級別へき地学校児童生徒数

令和5. 5. 1現在

級別 校種別	県準	特地	国準	1級	2級	3級	4級	計 (A)	県全体 (B)	A/B
小学校	364	487	85	277	5	0	0	1,218	88,146	1.4%
中学校	114	103	303	110	0	0	0	630	47,170	1.3%
計	478	590	388	387	5	0	0	1,848	135,316	1.4%

＜4＞郡市町村別へき地学校数一覧

() 内は、内数で休校中の学校 上段：小学校 下段：中学校

令和5. 5. 1現在

No.	郡市	町村	学校数			内 訳								合計
			本校	分校	計	文 部 科 学 省 指 定						県 準		
						4	3	2	1	準	特		計	
1	高 崎		2		2				1	1		2		2
			1		1				1			1		1
2	安 中		1		1							1		1
3	多野	上野	1		1				1			1		1
			1		1				1			1		1
4	多野	神流	1		1				1			1		1
			1		1				1			1		1
計			2		2				2			2		2
			2		2				2			2		2
5	甘楽	南牧												
			1		1				1		1		1	
6	吾妻	中之条	1		1				1			1		1
			1		1				1		1		1	
7	吾妻	長野原	2		2				1	1		2		2
8	吾妻	嬭恋	2		2						1	1	1	2
			1		1				1		1		1	
9	吾妻	草津	1		1						1	1		1
			1		1						1	1		1
10	吾妻	高山	1		1								1	1
			1		1								1	1
11	吾妻	東吾妻	1		1				1			1		1
計			8		8				3	1	2	6	2	8
			4		4				1	1	1	3	1	4
12	沼 田		1		1					1		1		1
			2		2				1		1	1	2	
13	利根	片品	1		1						1	1		1
			1		1				1		1		1	
14	利根	昭和	1		1								1	1
15	利根	みなかみ	1		1			1				1		1
計			3		3			1			1	2	1	3
			1		1				1		1		1	
総計	小 計		17	0(0)	17			1	6	3	3	13	4	17
			11	0(0)	11				4	4	1	9	2	11
総計	合 計		28	0(0)	28			1	10	7	4	22	6	28

＜5＞複式学級の郡市別、編成別、学級一覧（小学校のみ）

	1・2年	2・3年	3・4年	4・5年	5・6年	3・4・5年	4・5・6年	学級数計	学校数
安中市	1	0	0	0	0	0	0	1	1
多野郡	1	1	1	0	0	0	0	3	2
吾妻郡	1	0	4	0	0	0	0	5	4
沼田市	1	0	0	0	0	0	0	1	1
利根郡	1	0	0	1	1	0	0	3	2
計	5	1	5	1	1	0	0	13	10

〈6〉 級別へき地学校児童・生徒数の推移 (小・中学校別)

年度	県 準		特 地		国 準		1 級		2 級		3 級		4 級		計(A)		県全体(B)		(A)/(B)(%)	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
昭50	6,992	3,741	898	506	1,039	294	1,678	433	108	56	29	0		10,744	5,030	160,642	73,952	6.7	6.8	
昭51	6,872	3,617	828	460	1,032	177	1,496	413	101	48	23	0		10,352	4,715	164,571	74,866	6.3	6.3	
昭52	6,963	3,270	793	431	970	260	1,522	381	76	43	17	0		10,341	4,385	168,404	77,137	6.1	5.7	
昭53	6,718	3,335	744	407	918	254	1,475	348	60	52	15	0		9,930	4,396	175,155	78,059	5.6	5.6	
昭54	6,649	3,312	673	370	911	231	1,458	306	63	38	14	0		9,768	4,257	184,018	76,447	5.3	5.5	
昭55	6,664	2,983	654	329	981	326	1,255	299	52	35	14	0		9,620	3,972	188,039	79,196	5.1	5.0	
昭56	6,751	3,009	629	310	928	198	1,184	183	47	24	11	0		9,370	3,724	190,882	83,125	4.9	4.5	
昭57	6,559	3,038	603	317	870	221	1,141	302	46	26	11	0		9,230	3,904	191,613	89,121	4.8	4.4	
昭58	6,377	2,945	598	318	958	200	1,109	294	45	18	3	0		9,007	3,775	190,368	89,857	4.7	4.2	
昭59	6,161	2,935	578	311	863	205	1,051	279	51	13	4	0		8,708	3,743	186,953	92,462	4.6	4.0	
昭60	5,808	2,958	570	320	843	196	982	284	47	15	4	0		8,254	3,773	181,535	95,924	4.5	3.9	
昭61	5,623	2,897	575	284	756	206	898	272	50	17	1	0		7,903	3,676	174,525	98,645	4.5	3.7	
昭62	5,433	2,776	536	265	723	215	852	267	48	19	1	0		7,593	3,542	167,356	98,603	4.5	3.6	
昭63	5,308	2,679	664	248	662	224	715	202	46	16	2	0		7,397	3,369	161,507	95,748	4.6	3.5	
平元	5,185	2,497	652	238	629	210	686	199	48	14	1	0		7,201	3,158	156,680	91,502	4.6	3.5	
平2	2,328	783	1,140	783	1,518	421	1,609	816	110	19	11	9	1	6,717	2,831	152,668	87,619	4.4	3.2	
平3	2,252	766	1,142	813	1,486	391	1,597	799	29	83	14	8	1	6,521	2,860	149,153	85,001	4.3	3.3	
平4	2,168	733	1,140	782	1,422	390	1,538	813	23	77	11	7		6,302	2,802	145,739	82,396	4.3	3.4	
平5	2,110	680	1,110	803	1,356	407	1,506	1,186	18	71	10	5		6,110	3,152	142,339	79,203	4.3	4.0	
平6	2,047	614	1,097	796	1,293	407	1,448	751	13	72	5	9		5,903	2,649	139,346	76,265	4.2	3.5	
平7	1,977	589	1,065	803	1,242	375	1,414	726	10	68	12	8		5,720	2,569	136,361	74,105	4.2	3.5	
平8	1,425	339	1,582	1,013	1,098	369	1,283	710	97	58	2	8		5,487	2,497	132,149	73,180	4.2	3.4	
平9	1,334	314	1,503	1,010	1,117	364	1,203	712	80	69	1	3		5,238	2,472	128,340	72,283	4.1	3.4	
平10	1,298	302	1,469	940	1,049	346	1,128	703	76	58	0	0		5,020	2,349	125,648	70,481	4.0	3.3	
平11	1,222	292	1,398	921	995	329	1,096	713	78	58	0	0		4,789	2,313	123,443	67,831	3.9	3.4	
平12	1,160	285	1,350	858	953	336	1,044	692	77	47	0	0		4,584	2,218	121,396	65,681	3.8	3.4	
平13	1,042	312	1,318	840	920	333	999	682	64	44	0	0		4,343	2,211	120,264	64,305	3.6	3.4	
平14	1,132	476	932	475	1,148	325	794	644	4	41	0	0		4,010	1,961	119,455	63,335	3.4	3.1	
平15	1,114	474	1,039	581	951	288	768	613	0	43	0	0		3,872	1,999	119,760	60,356	3.2	3.3	
平16	1,090	231	809	535	1,116	243	698	563	0	43	0	0		3,713	1,572	119,273	58,629	3.1	2.7	
平17	1,093	353	774	398	1,033	217	665	567	0	35	0	0		3,565	1,570	118,877	58,272	3.0	2.7	
平18	1,086	342	731	401	1,019	205	620	554	0	39	0	0		3,456	1,541	118,536	58,059	2.9	2.6	
平19	1,020	341	708	415	952	193	584	567	0	33	0	0		3,264	1,549	117,423	58,034	2.8	2.7	
平20	921	316	647	407	887	191	531	516	0	32	0	0		2,986	1,462	117,196	57,621	2.5	2.5	
平21	863	307	628	392	819	183	534	499	0	29	0	0		2,844	1,410	115,679	58,195	2.5	2.4	
平22	1,380	636	592	312	301	124	473	384	137	62	0	0		2,883	1,518	114,650	57,508	2.5	2.6	
平23	1,233	563	568	356	403	118	440	370	134	65	0	0		2,778	1,472	112,674	57,383	2.5	2.6	
平24	1,107	530	534	336	346	16	433	449	125	58	0	0		2,545	1,389	110,375	56,626	2.3	2.5	
平25	1,095	521	421	337	323	23	421	421	123	57	0	0		2,383	1,359	108,395	56,228	2.2	2.4	
平26	904	421	405	313	420	34	391	421	126	49	0	0		2,246	1,238	106,219	55,987	2.1	2.2	
平27	715	332	515	282	407	40	296	378	54	52	0	0		1,987	1,084	104,539	55,301	1.9	2.0	
平28	647	282	651	174	213	364	276	151	53	52	0	0		1,840	1,023	102,642	54,577	1.8	1.9	
平29	592	284	612	167	199	337	266	128	43	57	0	0		1,712	973	100,903	53,102	1.7	1.8	
平30	580	253	613	156	218	312	249	115	46	48	0	0		1,706	884	99,461	51,510	1.7	1.7	
令元	545	259	579	137	209	303	227	121	48	38	0	0		1,608	858	97,214	50,463	1.7	1.7	
令2	532	223	548	121	192	302	220	122	44	32	0	0		1,536	800	95,135	49,836	1.6	1.6	
令3	511	233	532	129	167	293	199	106	47	38	0	0		1,456	799	92,471	49,125	1.6	1.6	
令4	404	154	499	107	88	316	290	178	5	0	0	0		1,286	755	90,252	48,214	1.4	1.6	
令5	364	114	487	103	85	303	277	110	5	0	0	0		1,218	630	88,146	47,170	1.4	1.3	

II 令和5年度群馬県へき地教育振興会役員

会 長 星野巳喜雄（沼田）

副会長 田村 利男（多野：神流町長） 小林 敦子（吾妻：吾妻郡町村教育委員会
梅澤 志洋（利根：片品村長） 連絡協議会会長）

理 事 小林 良江（高崎：高崎市教育長） 竹内 徹（安中：安中市教育長）
飯出 哲夫（多野：上野村教育長） 小池 英明（甘楽：南牧村教育長）

小林 敦子（吾妻：吾妻郡町村教育委員会 星野巳喜雄（沼田）
連絡協議会会長）

梅澤 志洋（利根：片品村長）

評議員

郡 市	町 村	評 議 員
高 崎 市		小 林 良 江（教育長）
安 中 市		竹 内 徹（教育長）
多 野 郡	上 野 村	飯 出 哲 夫（教育長）
	神 流 町	山 田 孝 行（教育長）
甘 楽 郡	南 牧 村	小 池 英 明（教育長）
吾 妻 郡	中 之 条 町	山 口 暁 夫（教育長）
	長 野 原 町	小 林 敦 子（教育長）
	嬭 恋 村	地 田 功 一（教育長）
	草 津 町	富 澤 勝 一（教育長）
	高 山 村	山 口 廣（教育長）
	東 吾 妻 町	山 野 邦 明（教育長）
沼 田 市		竹 之 内 篤（教育長）
利 根 郡	片 品 村	萩 原 明 富（教育長）
	昭 和 村	小 野 和 好（教育長）
	み な か み 町	田 村 義 和（教育長）

監 事 山野 邦明（吾妻：東吾妻町教育長） 萩原 明富（利根：片品村教育長）

令和5年度へき地教育振興会事務局及び郡市町村事務担当者・担当指導主事

事務局 書記・会計 前原 稔彦 ・ 神戸恵美子

市町村	連 絡 先	事務担当者	へき地担当指導主事
高 崎 市	高崎市教育委員会	藤 原 純 平	岡 部 隼 人 （西部教育事務所）
安 中 市	安中市教育委員会	伊 田 悠 一	
上 野 村	上野村教育委員会	小 池 啓 満	
神 流 町	神流町教育委員会	齋 藤 篤 人	
南 牧 村	南牧村教育委員会	恩 幣 紀 宏	
中 之 条 町	中之条町教育委員会	田 島 雄 二	堀 込 芳 洋 （吾妻教育事務所）
長 野 原 町	長野原町教育委員会	浅 沼 伸 行	
嬭 恋 村	嬭恋村教育委員会	野 寺 秀 樹	
草 津 町	草津町教育委員会	川 又 真 子	
高 山 村	高山村教育委員会	大 渊 俊 幸	
東 吾 妻 町	東吾妻町教育委員会	桑 原 菜 緒	中 島 康 男 （利根教育事務所）
沼 田 市	沼田市教育委員会	富 澤 誠 司	
片 品 村	片品村教育委員会	入 澤 達 郎	
昭 和 村	昭和村教育委員会	鈴 木 嘉 代 子	
み な か み 町	みなかみ町教育委員会	久 保 野 雅 之	

Ⅲ 令和5年度群馬県へき地教育研究連盟役員

役員

- ・理事長 小池 裕生 (吾妻：嬭恋村立嬭恋中学校)
- ・副理事長 伊藤 公夫 (安中：安中市立細野小学校)
- 田村 学 (沼田：沼田市立利根中学校)
- ・常任理事 春山 敦夫 (高崎：高崎市立宮沢小学校)
- 石関 博之 (吾妻：高山村立高山中学校)
- ・事務局長 石塚 博文 (吾妻：草津町立草津中学校)
- ・会計部長 土屋 学 (吾妻：長野原町立北軽井沢小学校)
- ・理事

ブロック 郡市	氏名	勤務校	勤務校所在地 (電話番号)	県へき役職
A 高崎 安中 多野 甘楽	伊藤 公夫	安中市立細野小学校	安中市松井田町新井365 (027-393-1322)	常任理事 副理事長
	春山 敦夫	高崎市立宮沢小学校	高崎市宮沢町1100-1 (027-374-2317)	常任理事 研究部長
	太刀川雄一	南牧村立南牧中学校	甘楽郡南牧村大字大日向1045 (0274-87-2501)	監査
	茂木 宏隆	神流町立万場小学校	多野郡神流町万場84-2 (0274-57-2320)	
B 吾妻	小池 裕生	嬭恋村立嬭恋中学校	吾妻郡嬭恋村大笹1645-2 (0279-96-0009)	常任理事 理事長
	石塚 博文	草津町立草津中学校	吾妻郡草津町草津464-27 (0279-88-2227)	常任理事 事務局長
	土屋 学	長野原町立北軽井沢小学校	吾妻郡長野原町北軽井沢1924 (0279-84-3010)	常任理事 会計部長
	桑原 武史	中之条町立六合中学校	吾妻郡中之条町生須543-1 (0279-95-3572)	
C 利根 沼田 吾妻	田村 学	沼田市立利根中学校	沼田市利根町追貝334 (0278-56-2044)	常任理事 副理事長
	石関 博之	高山村立高山中学校	吾妻郡高山村大字中山3750-1 (0279-63-2002)	常任理事 図書新聞部長
	平形 隆正	昭和村立大河原小学校	利根郡昭和村糸井5455-354 (0278-24-7166)	
	小林 菊江	片品村立片品小学校	利根郡片品村大字鎌田3952 (0278-58-3126)	監査

Ⅳ 令和5年度 群馬県へき地教育センター指導員

センター名	氏名	勤務先	勤務校所在地 (電話番号)
吾妻	山本 徳幸	吾妻教育事務所	〒377-0424 吾妻郡中之条町大字中之条町644 (0729-75-3370)
利根	中野 敬造	利根教育事務所	〒378-0031 沼田市薄根町4412 (0278-23-0165)

V 令和5年度へき地教育功労者

No.	氏名	該当する内規・功績の概要
1	飯沼 理恵子 安中市教育委員会推薦	令和5年3月に安中市立後閑小学校養護教諭として退職するまで、安中市及び高崎市内のへき地学校に17年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
2	石塚 峰子 中之条町教育委員会推薦	令和5年3月に中之条町立六合小学校養護教諭として退職するまで、吾妻郡及び利根郡内のへき地学校に34年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
3	中澤 昌宏 長野原町教育委員会推薦	令和5年3月に長野原町立東中学校校長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に28年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
4	篠原 正洋 長野原町教育委員会推薦	令和5年3月に長野原町立中央小学校校長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に23年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
5	青木 清 長野原町教育委員会推薦	令和5年3月に長野原町立北軽井沢小学校校長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に22年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
6	中澤 尚子 長野原町教育委員会推薦	令和5年3月に長野原町立応桑小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に35年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
7	谷川 篤 嬭恋村教育委員会推薦	令和5年3月に嬭恋村立東部小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に18年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
8	山野 悟 草津町教育委員会推薦	令和5年3月に草津町立草津中学校校長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に17年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
9	青木 博美 草津町教育委員会推薦	令和5年3月に草津町立草津中学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に29年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
10	宮崎 ひろ子 東吾妻町教育委員会推薦	令和5年3月に東吾妻町立坂上小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に23年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
11	高橋 直樹 東吾妻町教育委員会推薦	令和5年3月に東吾妻町立坂上小学校校長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に18年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
12	小林 浩 東吾妻町教育委員会推薦	令和5年3月に東吾妻町立原町小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に17年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
13	唐澤 浩二郎 東吾妻町教育委員会推薦	令和5年3月に東吾妻町立東吾妻中学校校長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に17年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
14	金井 みち代 沼田市教育委員会推薦	令和5年3月に沼田市立多那小学校教諭として退職するまで、沼田市及び利根郡内のへき地学校に16年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
15	中島 正裕 みなかみ町教育委員会推薦	令和5年3月にみなかみ町立古馬牧小学校教諭として退職するまで、利根郡内のへき地学校に18年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。

あ と が き

群馬県へき地教育資料「板木」第72集の発刊にあたり、御指導くださいました群馬県教育委員会の皆様をはじめ、御協力いただきました関係各位に心より感謝申し上げます。

「板木」は、昭和27年に群馬県へき地教育の資料集として第1号が創刊され、以来途切れることなく刊行されてきましたが、新型コロナウイルス感染症の全国的な感染拡大を背景に、令和2年度は発行を断念せざるを得ませんでした。しかしながら、令和3年度、第69・70集、令和4年度、第71集を発行し、今回、第72集を発刊することができました。

今年度は、第72回群馬県へき地教育研究大会が高崎市立倉渕小学校で開催されました。昨年度から大会をスリム化しましたが、今年度も、研究協議、学校公開、情報交換という半日の構成で実施しました。研究協議では、高山小学校・六合中学校の実践が紹介され、へき地における学校経営について、学校公開の授業参観では、少人数での学習の在り方について考えを深める貴重な機会となりました。情報交換の場面では、次年度以降の関ブロ役員選出等についての協議も行いました。各校の教育実践の参考にしていただければ幸いです。へき地教育の推進を図っていく一方で、児童生徒数の減少傾向が止まず、へき地校の状況は厳しさを増すばかりですが、みんなで力を合わせ、へき地教育を支えていければと考えます。

今年度も、へき地教育に携わる多くの方々から、原稿執筆や編集等の御協力をいただき、無事にへき地教育の記録を残すことができました。心からお礼申し上げます。完成した「板木」第72集が、今後のへき地教育推進の資料として、より多くの方々に活用されることを願っております。

なお、「板木」作成に携わった編集委員は、以下のとおりです。

群馬県教育委員会事務局

春田 晋（義務教育課長）

土屋 真美（義務教育課 人権・キャリア教育推進係長）

前原 稔彦（義務教育課 人権・キャリア教育推進係指導主事）

神戸恵美子（義務教育課 人権・キャリア教育推進係指導主事・板木担当）

群馬県へき地教育研究連盟

小池 裕生（県へき連 常任理事・理事長）

伊藤 公夫（県へき連 常任理事・副理事長）

田村 学（県へき連 常任理事・副理事長）

石塚 博文（県へき連 常任理事・事務局長・調査部長）

土屋 学（県へき連 常任理事・会計部長・図書新聞部）

石関 博之（県へき連 常任理事・図書新聞部長）

春山 敦夫（県へき連 常任理事・研究部長）

桑原 武史（県へき連 理 事・研究部）

平形 隆正（県へき連 理 事・研究部・広報担当）

茂木 宏隆（県へき連 理 事・調査部）

小林 菊江（県へき連 理 事・調査部・監査）

太刀川雄一（県へき連 理 事・図書新聞部・板木担当）